

二〇一三年全国調査と二〇〇三年全国調査からみた 社会関係資本の年齢階層別変化

稻葉 陽一

はじめに

筆者は二〇一三年一〇月中旬から一一月初旬にかけ、郵送法により『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』を実施した。^①本調査は信頼、規範、ネットワークなどの社会関係資本を調査対象としている。全国二一大都市、その他の市、町村から一〇〇地点を無作為抽出し、二〇歳から七九歳までの住民を母集団として、各地点の住民基本台帳から無作為に各地点

一〇〇人計一万人を抽出して調査票を郵送し、三五七五票の有効回答（回答率三五・八%）を得た。その概要はすでに稻葉（二〇一四）で、二〇一〇年に同内容の質問票により筆者が全国を対象に実施したアンケート調査（N=一五九九）および二〇〇二年内閣府が実施した全国郵送法調査（N=一七八八）との比較を含め、まとめていれる。本研究ノートは、この稻葉（二〇一四）の考察を踏まえ、二〇歳代から七〇歳代までの六つの年齢階層別に調査項目ごとにクロス集計表を作成し、年齢階層別の基

基礎データから読み取れる傾向をまとめたものである。なお、二〇一三年調査では、二〇歳代から四〇歳代までは女性の比率がほぼ六割に達しており、この年齢階層の母集団推計には不適である。また、一〇歳代は標本数が

三〇一と十分ではない。したがって、本稿における二〇一三年調査の二〇歳代から四〇歳代までの年齢階層別のデータ、特に二〇歳代の値は参考値にとどまる。加えて、経年比較に用いた一〇〇三年内閣府調査と二〇一〇年調査はサンプル数が二〇一三年調査より少なく、六階層に分けると、いずれの階層も母集団推計には標本数が足りない。したがって、二〇〇三年から二〇一〇年を経て二〇一三年までの一〇年間の年齢階層別経年変化も参考値にとどまる。なお、一〇〇三年内閣府調査は、内閣府国民生活局から個票データの提供を得た。記して謝意を表する。

（一）調査目的と設問

〔目的〕

外部性を伴う信頼・規範・ネットワークである社会関係資本を、一般的信頼、特定化信頼、ネットワーク（つきあい・社会参加）の観点から明らかにする。あわせて、社会関係資本と健康（主観的健康、生活での積極性＝抑うつ度^②）との関連を検証する。社会関係資本には一般的信頼など認知的なものと、社会交流・社会参加の側面からみたネットワークなどの構造的なものに分かれるが、本調査は双方を調査対象としている。^③

〔調査内容・設問〕

二〇一三年調査は次のような構成となっている。

問一 一般的信頼（九段階回答）

特定化互酬性（三段階回答）

一般的互酬性（三段階回答）

問二 近所づきあいの程度と人数（四段階回答）

友人・知人、親戚、同僚とのつきあいの頻度（五

段階回答)

問三 地域での活動状況

地縁的な活動への参加（七段階回答）

スポーツ・趣味・娯楽活動への参加（七段階回答）

ボランティア・NPO・市民活動への参加（七段階回答）

その他の団体活動への参加（七段階回答）

最も頻繁に参加している活動とその特性

問四 生活の状況

主観的生活満足度（五段階回答）

日常生活での心配事（一七項目、五段階回答）

特定化信頼（一一対象、五段階回答）

主観的健康感（四段階回答）

抑うつ度（K6、六項目、五段階回答）

成人期以後の学習（三項目、五段階回答）

日常生活における対処（九項目、五段階回答）

寄付・募金活動について

寄付の対象と金額

不正への許容度（四項目、一〇段階回答）

回答者の属性

性別、年齢、職業、居住形態、居住年数、同居人の有無と人数、最終学歴、年間世帯収入

本調査の設問は基本的に、二〇〇三年に内閣府国民生活局が株式会社日本総合研究所へ委託して実施したソーシャル・キャピタル調査研究会（委員長 山内直人大阪大学教授）アンケート調査に準拠しているが、その後多くの改訂を行っている。二〇一三年調査の内容・形式については、^④日本大学医学部倫理委員会の審査を受審し、承認を得ている。

（二）調査・実施主体

日本大学法学部 稲葉陽二研究室

アンケートの実施は一般社団法人中央調査社に委託

日常生活における対処（九項目、五段階回答）

（三）調査関連期間

調査票の検討 二〇一三年四月～六月

調査の倫理面からの審査 二〇一三年六月～〇日～七

月二三日

調査実施期間 二〇一三年一〇月一〇日～一月八日

（四）母集団と調査対象者、対象者のサンプリング方法

〔母集団〕 全国の一〇〇歳から七九歳の居住者

〔対象者〕 全国一〇〇地点における居住者一〇〇〇〇名

〔サンプリング方法〕 全国一〇〇地点を無作為抽出し、

さらにそれぞれの地点の住民基本台帳から二〇歳から
七九歳の居住者一〇〇人を無作為抽出

〔調査方法〕 郵送法（配付・回収とも）

（五）調査配票数・回収数・回収率

〔配票数〕 一〇〇〇〇票

〔回収数〕 三五七五票（無効票なし）

〔有効回収数〕 三五・七五%（三五七五票／一〇〇〇〇票）

（六）調査実施メンバー

研究代表者 稲葉陽二、研究協力者 緒方淳子、調査

実施と回答の入力は一般社団法人中央調査社に委託

（七）記述統計量と回答者の属性

表2は集計値からみた本調査の結果を示しており、⁽⁵⁾二〇一三年調査以外に内閣府国民生活局が実施した二〇〇三年全国郵送法調査と、筆者が実施した二〇一〇年全国郵送法調査の二つの全国調査の集計値との比較を加えている。結果の概要についてはすでに稻葉（一九五四年）で述べたとおりであり、次のようにまとめている。

一、集計値でみた調査結果の概要と 本稿の対象

「本稿では、二〇一三年に実施した社会関係資本全国調査の概要を紹介し、あわせて二〇〇三年調査、二〇一〇年調査との比較をした。過去の調査の比較では、二〇〇三年から二〇一三年の一〇年間で、認知的な社会関係資本である一般的信頼は安定し、構造的な社会関係資本でも地縁活動と趣味・スポーツ・娯楽活動への参加率は大幅に上昇したが、毎日の生活の中で接する隣人、友人・知人、職場の同僚、家族、親戚などとの実質的なつきあいは大幅に減り、認知的な社会関係資本でもこれら日常で接する組織や人々に対する特定化信頼は大幅に毀損したことを示唆する結果となつていてる。

しかもこの傾向は、二〇一〇年から二〇一三年の三年

表1 2013年調査記述統計・回答者の属性

		N	平均・構成比 (%)	標準偏差 ほか	範囲
性別	男性	1628	45.5		
	女性	1947	54.5		
年齢		3575	53.5歳	15.8	20-79
職業	自営業	341	9.5		
	経営者	87	2.4		
	民間・団体勤め人 (正規社員)	820	22.9	最頻値	
	民間・団体勤め人 (契約・派遣社員)	195	5.5		
	公務員・教員	168	4.7		
	臨時・パート勤め人	536	15		
	学生	61	1.7		
	無職	588	16.4		
	専業主婦・主夫	594	16.6		
	その他	94	2.6		
居住形態	持ち家	2747	76.8		
	借家	721	20.2		
居住年数		3484	25.5年		0-79
同居人数	単身	346	9.7		
	同居人あり	3155	88.3		
最終学歴	小中学校	375	10.5		
	高等学校	1438	40.2	中位値・最頻値	
	専修学校ほか	407	11.4		
	高専・短大	383	10.7		
	大学	844	23.6		
	大学院	81	2.3		
世帯年収	200万円未満	354	9.9		
	200~400万円未満	1051	29.4	最頻値	
	400~600万円未満	816	22.8	中位値	
	600~800万円未満	497	13.9		
	800~1,000万円未満	329	9.2		
	1,000~1,200万円未満	147	4.1		
	1,200万円以上	145	4.1		

間でもみられ、二〇一〇年から二〇一三年のわずか三年の間に、一般的信頼を除いたネットワークを主体とする構造的な社会関係資本と、認知的ではあるが構造的な社会関係資本の影響を受けやすい特定化信頼が大きく変化している。二〇一〇年と二〇一三年の間の社会経済環境における大きな変化は、東日本大震災をはじめとする天災の激化であるが、一般的には、東日本大震災は人々の間に絆の重要性を再認識させたと評価されており、絆を社会関係資本と解釈すれば、この三年間でむしろ社会関係資本の指標は強化される方向への変化が期待されたが、集計値でみる限り本調査の結果はまったく反対の変化を示唆している。

二〇〇三年から二〇一三年の間の変化は、性別、年齢階層別、年間世帯収入別でみた場合、基本的にすべての階層で有意な差がみられるので、性別、高齢化、収入の影響によるものとはいがたい。しかし、職業別にみた場合は、有意に差がみられる職種と、そうでない職種に二分されるところから、二〇〇三年調査と二〇一三年調査との比較でみられた社会関係資本の変化は、基本的にこの間の雇用環境と労働市場の変化を反映しているものといえる。（稻葉二〇一四、一五二—二六頁。）

本稿では、稻葉（二〇一四）の考察を踏まえ、年齢階

層別に調査項目についてクロス集計表を作成し、年齢階層別の基礎データから読み取れる傾向を研究ノートとしてまとめたものである。年齢階層は、二〇歳から二九歳（N=三〇二）、三〇歳から三九歳（N=五一六）、四〇歳から四九歳（N=六〇一）、五〇歳から五九歳（N=六〇五）、六〇歳から六九歳（N=八〇三）、七〇歳から七九歳（N=六二〇）の六階層別としている。また、二〇一三年調査における回答者の年齢階層別の属性は表3にまとめている。社会関係資本、特に構造的・社会関係資本については、性差が大きいことが知られているが、表3に示すように、二〇歳代から四〇歳代までは女性の比率がほぼ六割に達しており、この年齢階層の母集団推計には不適である。また、二〇歳代は標本数も三〇一と十分ではない。したがつて、本稿における二〇歳代から四〇歳代までの年齢階層別のデータ、特に二〇歳代の値は参考値にとどまる。

表2 調査結果(集計値)の概要

		一般的信頼				特定化信頼					
		設問	一般的な 信頼	旅先での 信頼	近所の人々 への信頼	家族 への信頼	親戚 への信頼	友人・知人 への信頼	職場の同僚 への信頼		
		サンプル数	ほとんど 信頼できる	ほとんど 信頼できない	頼りになる	頼りになる	頼りになる	頼りになる	頼りになる		
全国調査 (2013年)	3,575	26.9	22.0	31.9	84.1	58.2	60.4	28.8			
全国調査 (2010年)	1,599	27.9	21.3	40.5	89.1	66.7	69.7	36.5			
全国調査 (2003年)	1,878	24.8	18.9	43.1	90.1	63.8	73.7	42.9			
2010から2013への変化		-1.0	0.7	-8.6	-5.0	-8.5	-9.3	-7.7			
2003から2013への変化		2.1	3.1	-11.2	-6.0	-5.6	-13.3	-14.1			
ネットワーク つきあい											
		近所づきあい の程度	近所づきあい の人数	友人・知人と つきあい頻度	親戚との つきあい頻度	職場の同僚との つきあい頻度	地縁活動		スポーツ・ 趣味・ 娯楽活動	ボランティア・ NPO・ 市民活動	
		生活面で 協力・立話	かなり多い・ ある程度と面識 ある程度と面識	日常的・ ある程度頻繁	日常的・ ある程度頻繁	日常的・ ある程度頻繁	日常的・ ある程度頻繁	日常的・ ある程度頻繁	参加している	参加している	
全国調査 (2013年)	59.0	56.8	45.2	32.9	17.2	50.7	55.8	30.1			
全国調査 (2010年)	60.4	59.5	49.2	38.0	22.1	51.8	52.0	32.1			
全国調査 (2003年)	70.1	67.7	57.7	37.1	25.4	35.5	30.9	16.8			
2010から2013への変化	-1.4	-2.7	-4.0	-5.1	-4.9	-1.1	3.8	-2.0			
2003から2013への変化	-11.1	-10.9	-12.5	-4.2	-8.2	15.2	24.9	13.3			

表3 年齢階層別回答者属性 (%)

属性		年齢 (サンプル数)	30歳未満 (301)	30-39 (516)	40-49 (601)	50-59 (605)	60-69 (803)	70歳以上 (620)
性別	男	40.9	39.8	41.3	45.5	49.9	50.8	
	女	59.1	60.2	58.7	54.5	50.1	49.2	
職業	自営業	2.1	7.8	9.7	10.0	18.4	17.1	
	経営者・役員	0.0	1.7	3.1	3.1	6.1	1.7	
	民間勤め人（正規雇用）	45.8	48.7	40.4	36.1	9.0	1.7	
	民間勤め人（非正規雇用）	6.3	6.9	8.5	8.6	8.0	1.1	
	公務員・教員	4.9	7.3	7.4	12.0	1.9	1.1	
	パート等	11.1	21.5	24.8	22.8	20.6	5.2	
	学生	20.5	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	
	無職	6.9	4.7	3.7	4.9	31.7	65.6	
居住形態	持家（1戸建）	42.6	50.3	55.3	68.5	77.3	79.2	
	持家（集合住宅）	13.2	13.1	18.4	15.4	11.6	9.2	
	民間借家	27.7	25.4	16.5	8.3	5.2	4.1	
	社宅等	2.6	4.2	2.9	1.1	0.4	0.0	
	公営借家	7.7	4.6	4.4	5.2	4.1	6.5	
	借間	3.9	1.3	1.1	0.3	0.2	0.3	
	住み込み	1.6	0.2	0.0	0.3	0.4	0.0	
住み続けたいか	住み続けたい	42.8	55.6	56.8	57.6	72.1	78.7	
	どちらでもよい	38.3	33.2	33.7	33.1	18.5	15.2	
	引っ越ししたい	16.6	8.7	8.3	6.7	5.1	1.8	
同居人の有無	あり	82.8	92.3	94.3	93.1	88.7	86.7	
	一人暮らし	17.2	7.7	5.7	6.9	11.3	13.3	
最終学歴	小・中学校	3.5	2.3	1.9	3.8	13.2	32.0	
	高等学校	27.7	26.4	40.1	40.9	50.5	45.2	
	専門学校等	12.9	17.1	14.2	12.1	8.6	6.5	
	高専・短大	10.3	16.3	15.8	12.6	7.3	4.3	
	大学	40.8	31.2	25.0	27.5	19.0	10.7	
	大学院	4.2	5.3	2.4	2.2	1.0	0.5	
世帯収入	200万円未満	9.1	5.7	6.3	5.5	13.2	21.0	
	200～400万円未満	32.3	23.1	19.8	19.2	41.8	47.9	
	400～600万円未満	21.7	36.2	26.9	22.7	23.8	16.4	
	600～800万円未満	14.6	16.6	23.0	20.5	9.7	7.1	
	800～1,000万円未満	9.8	12.3	13.7	15.2	5.5	4.6	
	1,000～1,200万円未満	5.1	3.5	6.1	9.3	2.0	1.5	
	1,200万円以上	7.5	2.7	4.4	7.7	4.0	1.5	

三・年齢階層別にみた一〇一三年調査

三一一年齢階層別属性

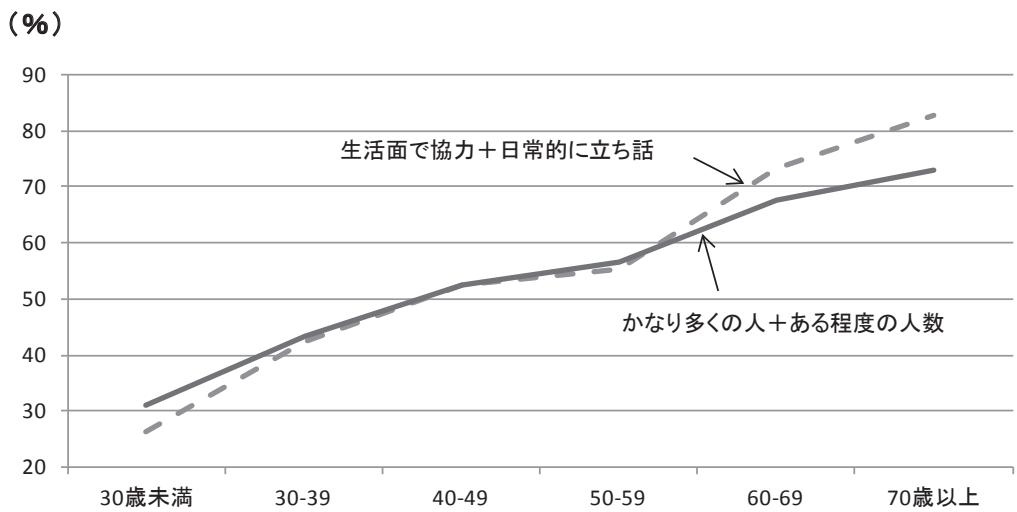
表3は年齢階層別の属性を示している。すでに指摘したように、二〇歳代から四〇歳代までは女性の比率がほぼ六割に達しており、この年齢階層についてはバイアスがある。また、職業は若年層から五〇歳代の壮年層までは「民間勤め人（正規雇用）」が最も多い。持家比率は二〇歳代でも五六%に達しており、七〇歳では九割近くと全般に高い。世帯収入も中位数は二〇歳代から四〇歳代まで四〇〇万円～六〇〇万円未満であり五〇歳代で六〇〇万円～八〇〇万円未満に上がり、その後六〇歳代で四〇〇万円～六〇〇万円未満に戻り、七〇歳代で二〇〇万円～四〇〇万円未満となつてている。最終学齢で最頻値は、二〇歳代と三〇歳代が大学であるが、四〇歳代以降は高等学校が最頻値となる。回答者の六〇歳代で九人に一人、七〇歳代で七・五人に一人が一人暮らしである。

構造的・社会関係資本

本調査では構造的・社会関係資本として、「近所づきあいの程度」、「近所づきあいの頻度」、「友人・知人とのつきあいの頻度」、「親戚・親類とのつきあいの頻度」、「同僚とのつきあいの頻度」、「地縁的な活動への参加率」、「スポーツ・趣味・娯楽活動への参加率」、「ボランティア・NPO・市民活動への参加率」、「その他団体活動への参加率」の九つの設問を設けている。このうち「近所づきあい」については、総じていえば、年齢階層が上がるほどつきあいや団体参加の頻度が上がる。その一方で、信頼や互酬性などの認知的・社会関係資本については、年齢階層が上がれば上がるほど高水準になるわけではない。むしろ、社会全体へ対する一般的な信頼は壮年期がピークで、六〇歳代以降は低下傾向がみられる。また、特定化信頼は、同僚や友人・知人への信頼は年齢が上がると低下する。同様に互酬性は、若年層のほうが壮年層、高齢層よりも高い。

三一二年齢階層別社会関係資本

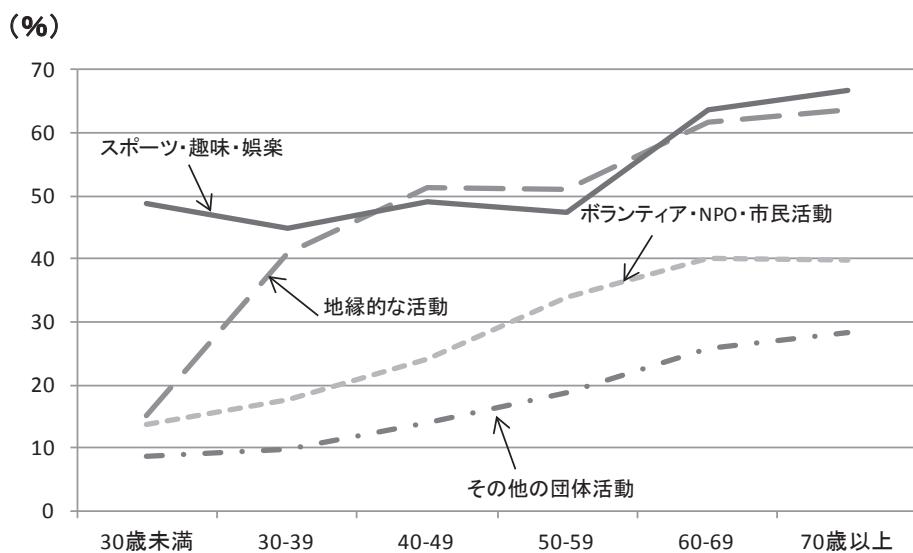
図1 年齢階層別 近所づきあい



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

「あいの程度」、「近所づきあいの頻度」は図1に示されるように、年齢階層が上がるほど、上昇する。これは居住年数が長くなれば、近所づきあいもそれに比して長期となるので十分予想されるものである。また、団体参加率も、図2に示されるように、高齢になるほど、参加率が上昇する。四つのタイプの活動、いずれについても、現役から退く六〇歳代で参加率が大きく上昇する。四つのタイプの活動のうち、「地縁的な活動」は二〇歳代では一五%であるのに対し、四〇歳代で五〇%を超え、六〇歳代になると六〇%を超える。壮年層と高齢者層に支えられているという実態がわかる。同様の傾向は「ボランティア・NPO・市民活動」「その他の団体活動」についてもみられるが、年齢階層間の差は「地縁的活動」よりも小さい。ただし、「スポーツ・趣味・娯楽活動」は二〇歳代から五〇%近くの参加率があり、それが五〇歳代まで継続され、世代間の差が他の三つの活動と比して小さい。世代間の社会関係資本の醸成には、「地縁的な活動」より「スポーツ・趣味・娯楽活動」を活用したほうがよいのかもしれない。ただし、構造的社会関係資本のなかでも、年齢階層が上昇しても上がらないものもある。

図2 年齢階層別 団体参加率



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

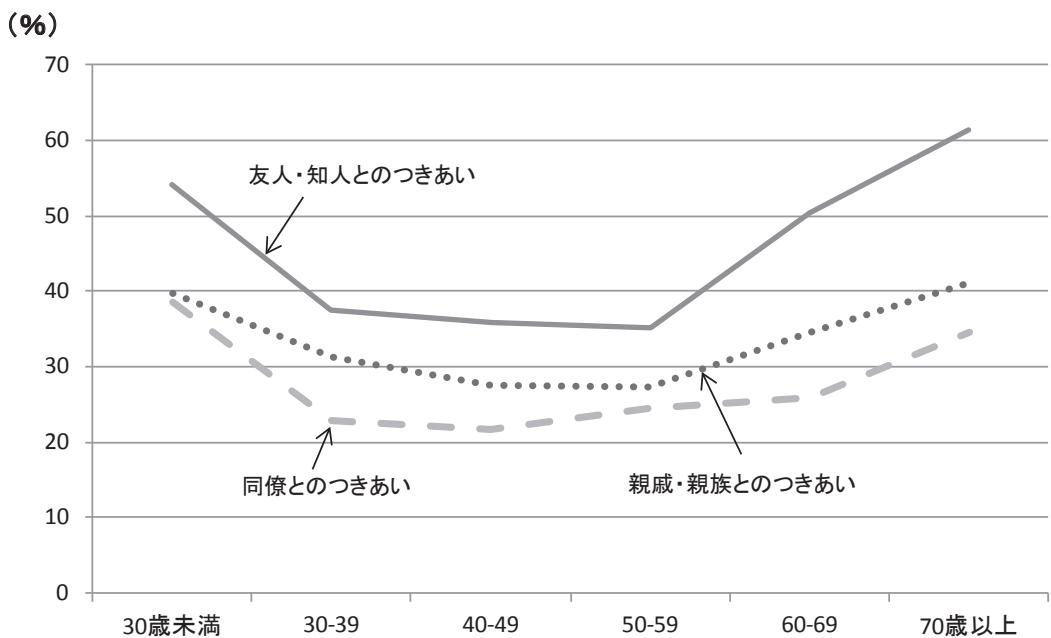
る。具体的には、図3に示されるように、「友人・知人とのつきあいの頻度」「親戚・親類とのつきあいの頻度」「同僚とのつきあいの頻度」は二〇歳代が高く、三〇歳代で大幅に低下し、五〇歳代まで低水準で底這いし、六〇歳代から七〇歳代にかけて上昇するU字型となっている。これは壮年期に入るにしたがつて職場や子育て、教育などによつて友人・知人、親戚、同僚と疎遠になるということであろうか。

認知的・社会関係資本

本調査では認知的・社会関係資本として、「一般的信頼」「特定化信頼」「一般的互酬性」「特定化互酬性」を尋ねているが、「特定化信頼」は組織に対する信頼（「学校・病院等の公的機関等」「警察や交番等」「市役所・町村役場等」「自治会等の地縁団体」「ボランティア・NPO・市民活動団体」「勤務先」）と人に対する信頼（「友人・知人」「近所の人々」「家族」「親戚」「同僚」）に分け、より詳細に調べている。

図4に示されるように、「一般的信頼」（「ほとんどの人は信頼できる」）は二〇歳代では二〇%と低いが、五〇歳代で三〇%を超えるようになり、六〇歳代で横ばい、七〇歳代で微減

図3 年齢階層別 つきあい（友人・知人、親戚・親類、同僚）



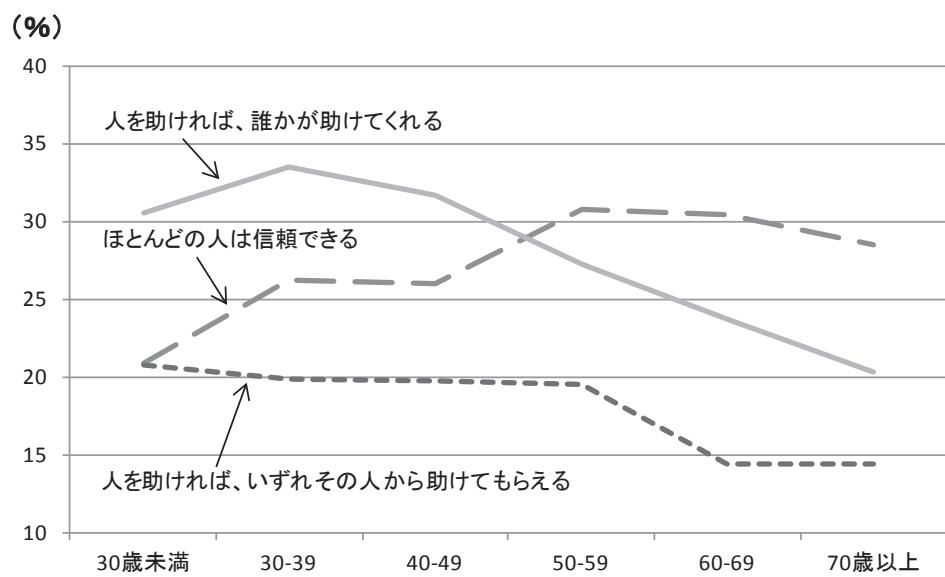
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

する。また、組織に対する「特定化信頼」(図5)も「勤務先」に対する信頼を除き、総じて年齢階層が上がるにつれ上昇する。ただし、人に対する「特定化信頼」(図6)では「友人・知人」「同僚」への信頼は年齢階層が上がるにつれて低下する。また、一般的な互酬性と特定化互酬性(図4)も若年層のほうが壮年層、高齢者層よりも高く、人生での経験を積むにしたがい互酬性は毀損していくようみえ、一般的な信頼とは対照的である。

三十三 年齢階層別にみたQOL 生活満足度と生活上の孤立への懸念

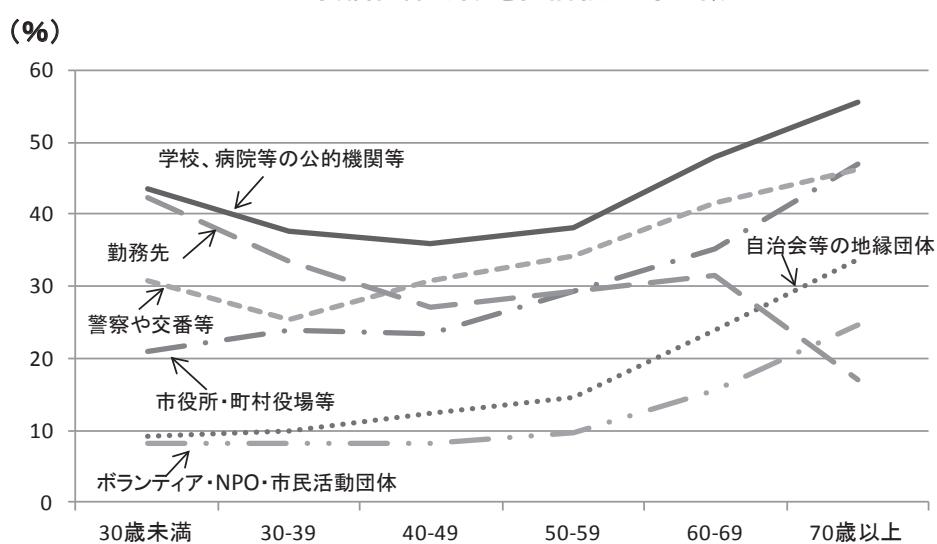
「生活に満足」の比率(図7)はどの年齢階層でも五割を超える。年齢階層別には大きな差はみられないが、四〇歳代、五〇歳代が五割と最も低く、六〇歳代で上昇し、七〇歳代では六割を越える。生活満足度が年齢階層にかかわらず高水準であるが、「孤立への懸念」も各年齢階層で三割前後と比較的高く、六〇歳代で二五%程度へ低下するが、七〇歳代で再び三割が「孤立への懸念」があるとしている。同様の傾向は「家庭内の人間関係」「近隣での人間関係」でもみられ、前者は一割前後、後

図4 年齢階層別一般的信頼と互酬性



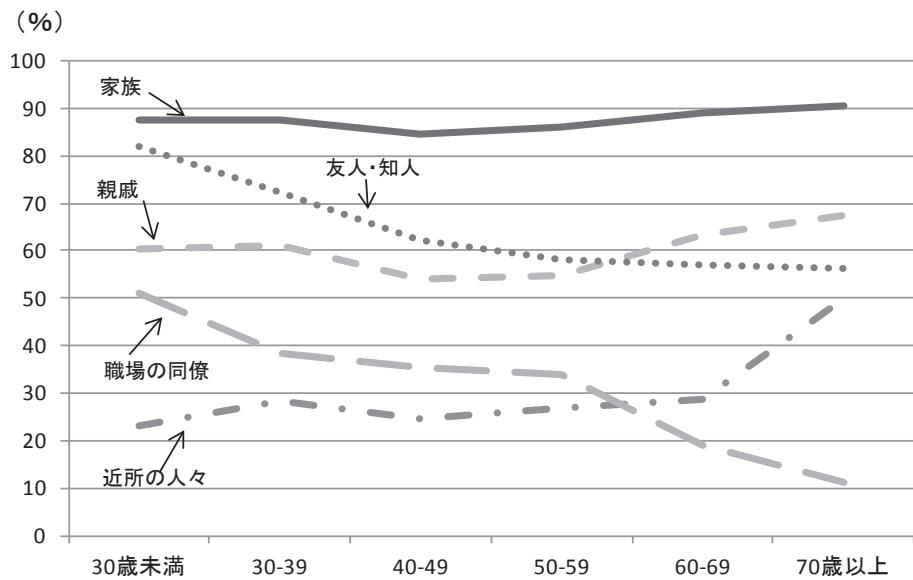
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

図5 年齢階層別特定化信頼—対組織



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

図6 年齢階層別 特定化信頼—対人



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

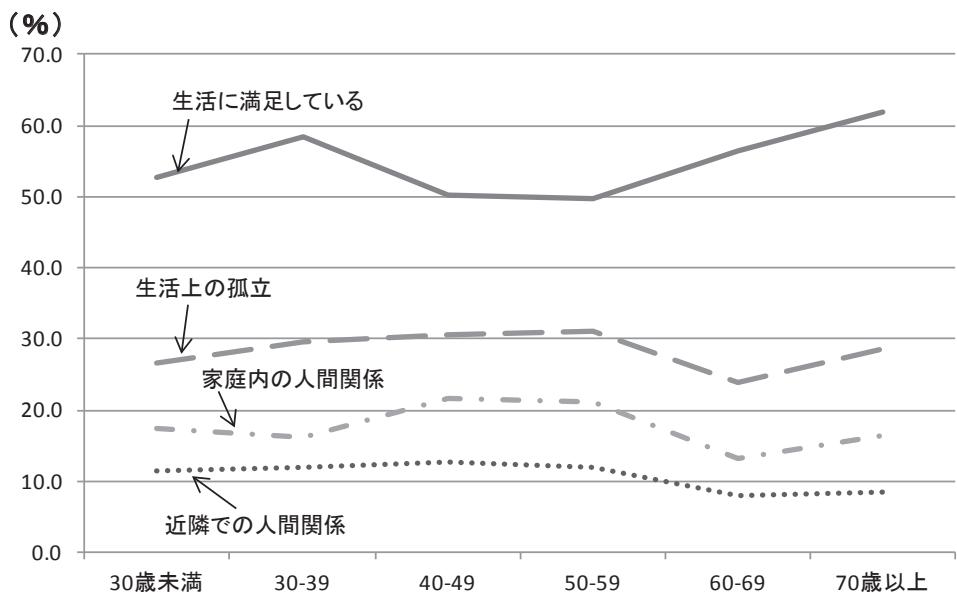
者一割前後の水準で、全年齢階層共通の問題・心配事となつてはいる。孤立を含めた人間関係への懸念は全年齢階層共通であり、人生を通じて変わらない悩みの種なのかもしれない。

社会への寛容性・不正への許容度

本調査では回答者の社会への寛容性の指標として「各種募金」「まちづくり・環境保全・安全な生活・国際協力のための活動」「宗教団体」「国や地方団体」「その他団体」への寄付について尋ねている。年齢階層別に寄付（金銭+現物）した者の比率（図8）をみると、「各種募金」への参加率が最も高い。「各種募金」に次いで「まちづくり・環境保全・安全な生活・国際協力のための活動」への寄付の参加率が高く、表にはないが「各種募金」や他の寄付と比べて現物の比率が比較的高いのが特徴的である。どの分類の寄付でも、年齢階層が上がれば上がるほど、寄付への参加率が高まる。

寄付に加えて、「公共交通機関の料金をごまかす」「賄賂」「脱税」「無資格での年金や医療給付の請求」の四つの不正について許容度（認められない）の比率）を尋ね

図7 生活満足度と世代間共通の問題・心配事



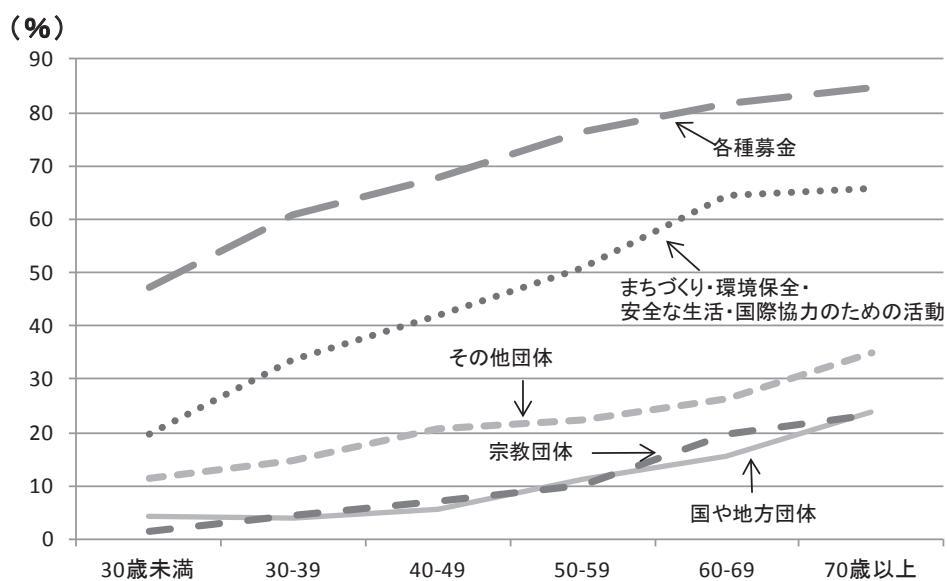
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

ている（図9）。脱税への許容度が一番低く（「認められない」とする比率が高い）、「年金・医療給付の不正受給」への許容度が一番高い。四つの不正、いずれに対しても、年齢階級が上がるほど不正を認めないとする比率が高まるが、「脱税」「公共交通料金」については「認められない」とする比率が七〇歳代では若干低下する。また、「年金・医療給付の不正受給」については若年層の許容度が特に高く、一〇歳代では「認められない」とする比率は五六%にすぎず、年金・医療給付に関するモラル低下が顕著である。

身体と心の健康

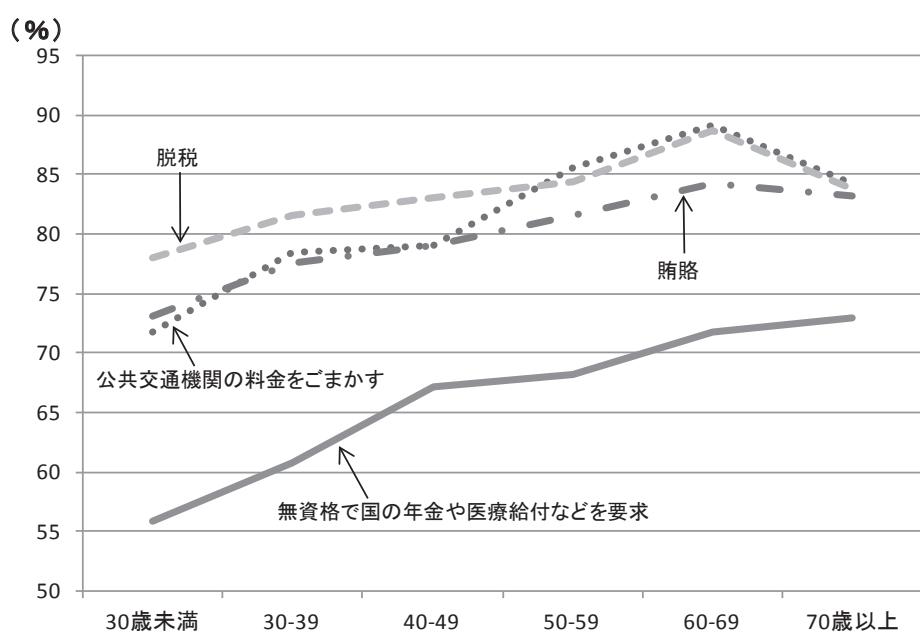
一〇一三年調査は身体の健康の指標として「主観的健康感（Self-Rated Health, SRHと略）と心の健康の指標として「K₆値（〇～一四）」を尋ねている。K₆値は抑うつ度が高くなるほど高くなる。図10は両者をまとめて表示しているが、K₆値は各年齢階層の平均値を示し、SRHは「あまり健康ではない」と「健康ではない」との合計の比率を示している。心の健康を表すK₆は一〇歳代が一番高く、その後六〇歳代まで年齢を重ねるごと

図8 年齢階層別 寄付率（金銭＋現物）



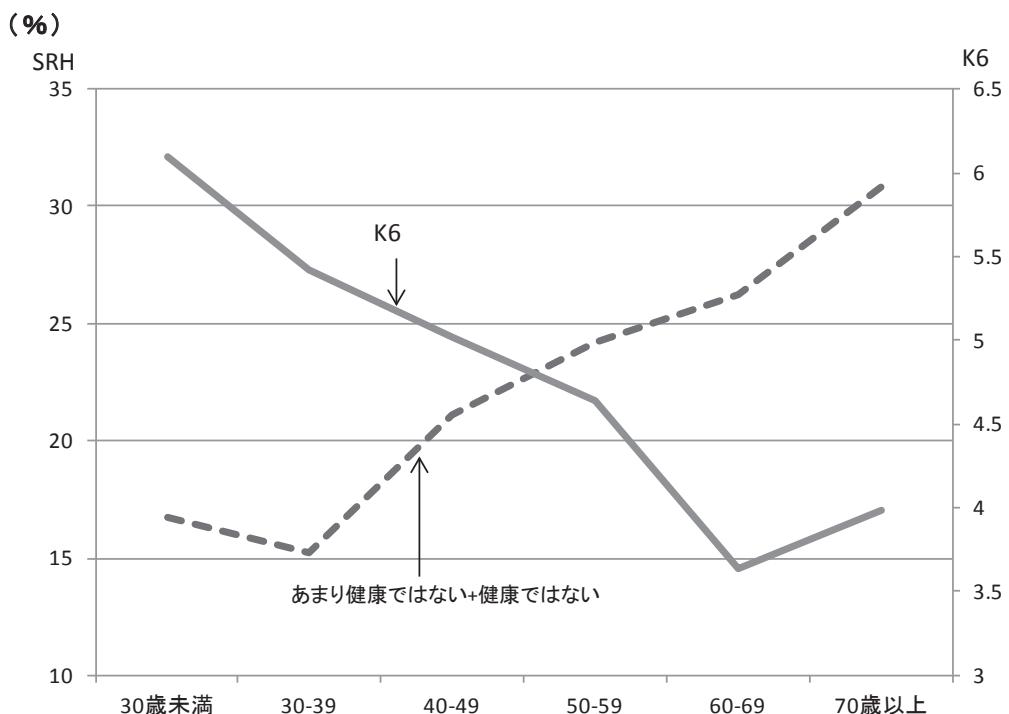
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

図9 年齢階層別 不正許容度（「認められない」の比率）



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

図10 年齢階層別 主観的健康感（SRH）と心の健康（K6値）



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

に低下しているが、身体の健康を表す主観的健康感は三〇歳代を底にその後年齢階層が上がるごとに一貫して上昇しており、七〇歳代ではほぼ三人に一人が健康ではない状態となっている。心の健康は年齢と順相関で年を取ると改善するが、身体の健康は年齢と逆相関で年を取ると悪化する。身体の健康と年齢の関係は当然であるが、心の健康と年齢の順相関は、若年層を囲む環境がいかに過酷であるかを示唆しているようにも解釈できよう。

三十四 年齢階層別にみた性差

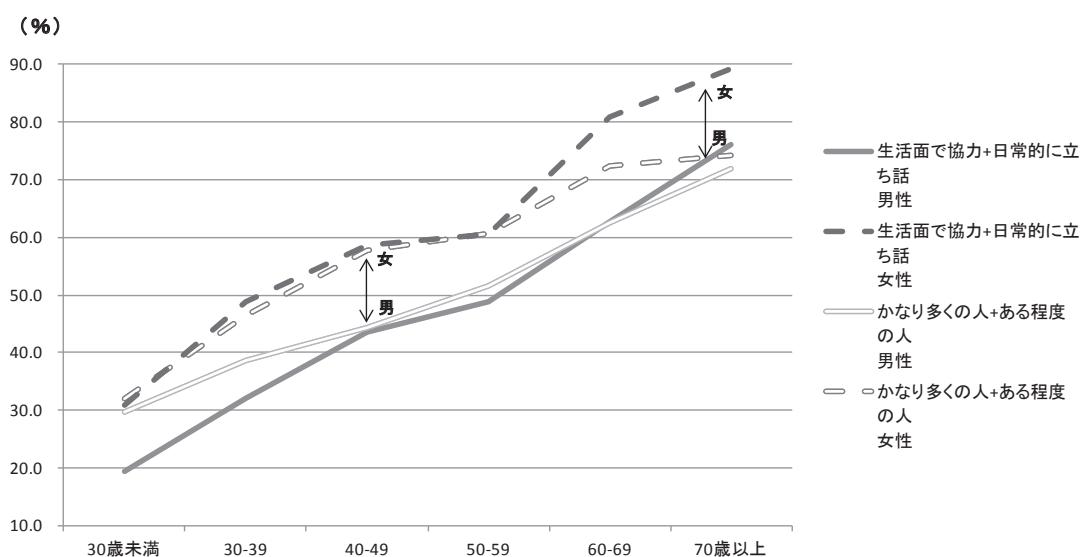
社会関係資本には性差が大きいという点が先行研究で明らかになつていて、本調査でも顕著にみられ、年齢階層別でも男女間で大きな違いがみられる。構造的社会関係資本は、身近な人々とのつきあいは女性の方が密であるが、団体参加率は男性のほうが高い。一方、認知的・社会関係資本の性差はより複雑である。

構造的・社会関係資本

本調査では構造的・社会関係資本として、「近所づきあいの程度」、「近所づきあいの頻度」、「友人・知人とのつ

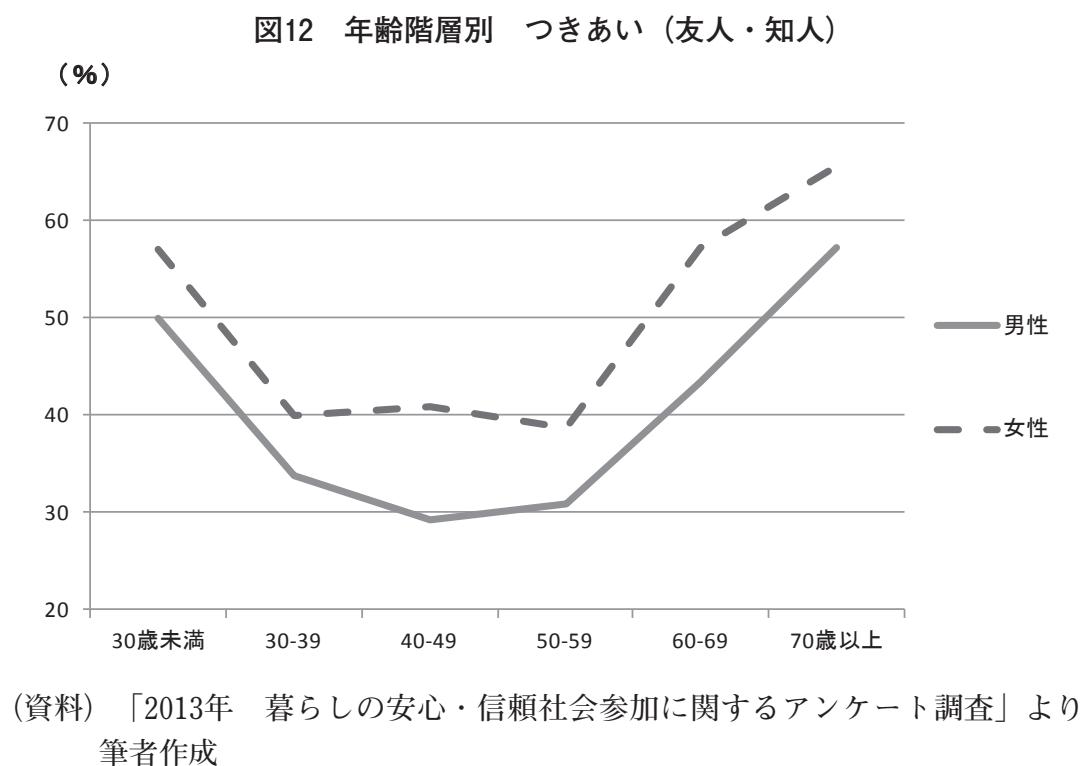
きあいの頻度」「親戚・親類とのつきあいの頻度」「同僚とのつきあいの頻度」「地縁的な活動の参加率」「スポーツ・趣味・娯楽活動への参加率」「ボランティア・NPO・市民活動への参加率」「その他団体活動への参加率」の九つの設問を設けている。このうち「近所づきあいの程度」「近所づきあいの頻度」「友人・知人とのつきあいの頻度」「親戚・親類とのつきあいの頻度」「友人・知人とのつきあいの程度」「親戚・親類とのつきあいの頻度」は、図11から図13に示されるように、「一貫して女性の方が高い。ただし、「同僚とのつきあいの頻度」（図14）は男性の方が高い。また、図15に示されるように、団体参加率は「地縁的な活動」が女性の参加率が三〇歳代で四割を超える、四〇歳代で男女とともに五割に達するが、三〇歳代の女性がいわば実働部隊として地縁的活動を支えているよううにみえる。「ボランティア・NPO・市民活動への参加率」（図16）では四〇歳代までは男女差は大きくなが、五〇歳代で女性が男性を上回り、六〇歳以降では逆に男性の参加率が上回る。また、「スポーツ・趣味・娯楽活動への参加率」（図17）、「その他団体活動への参加率」（図18）はほぼ一環して男性の方が女性より高い。

図11 年齢階層別 近所づきあい



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より
筆者作成

一〇一三年全国調査と一〇〇三年全国調査からみた社会関係資本の年齢階層別変化（稻葉）



一七一（九一二）

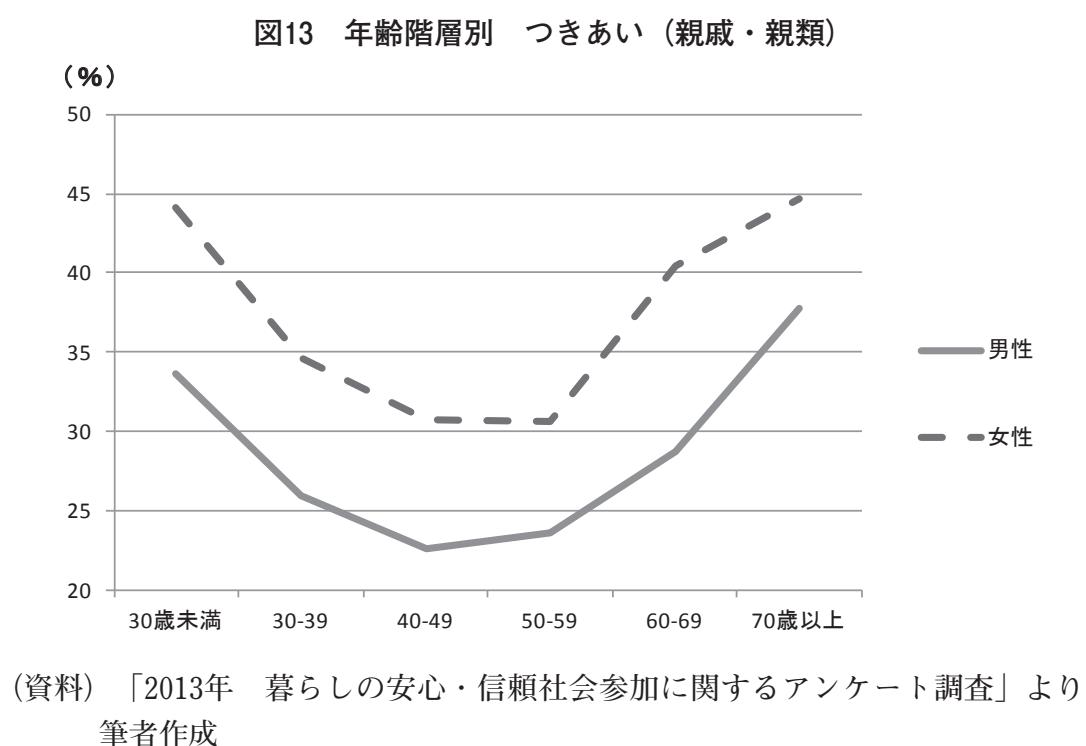
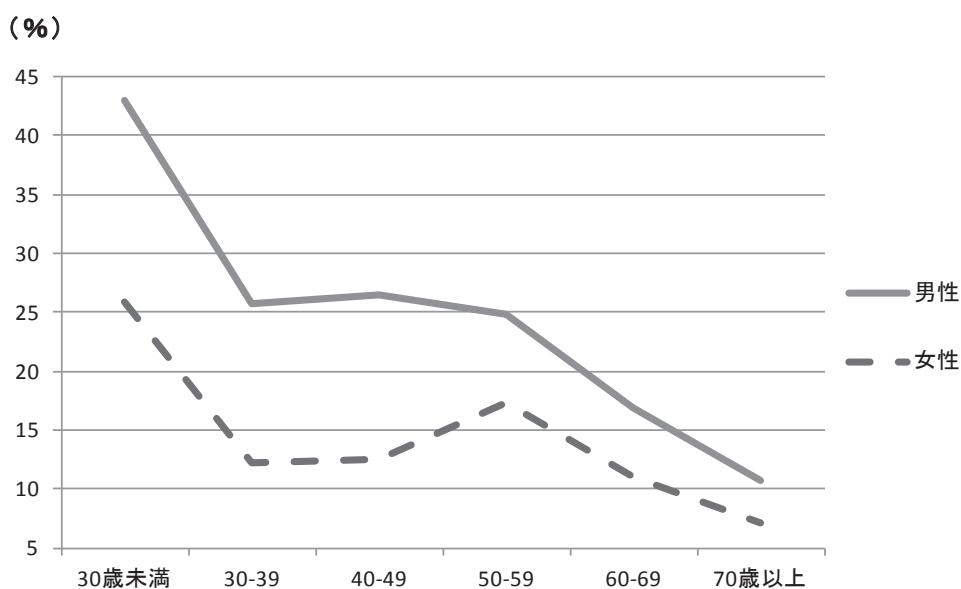
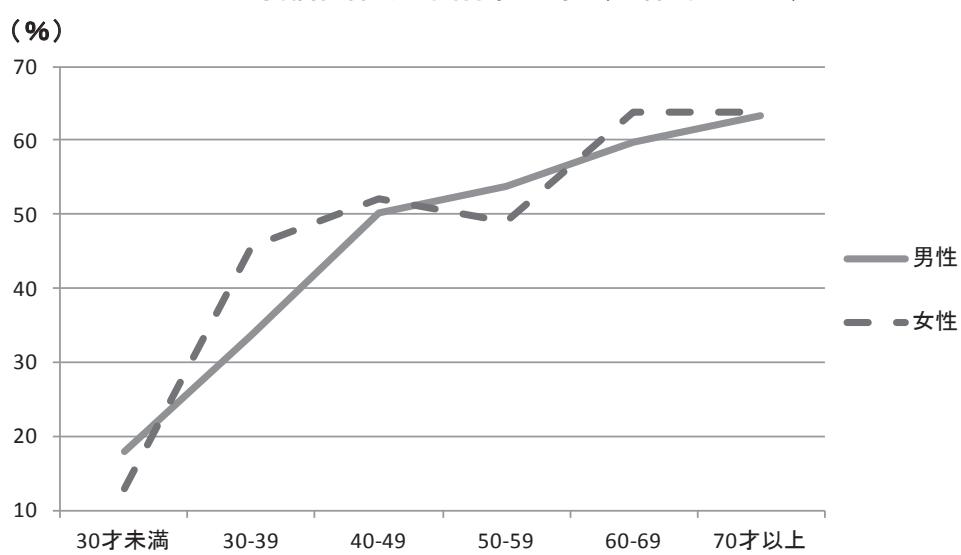


図14 年齢階層別 つきあい（同僚）



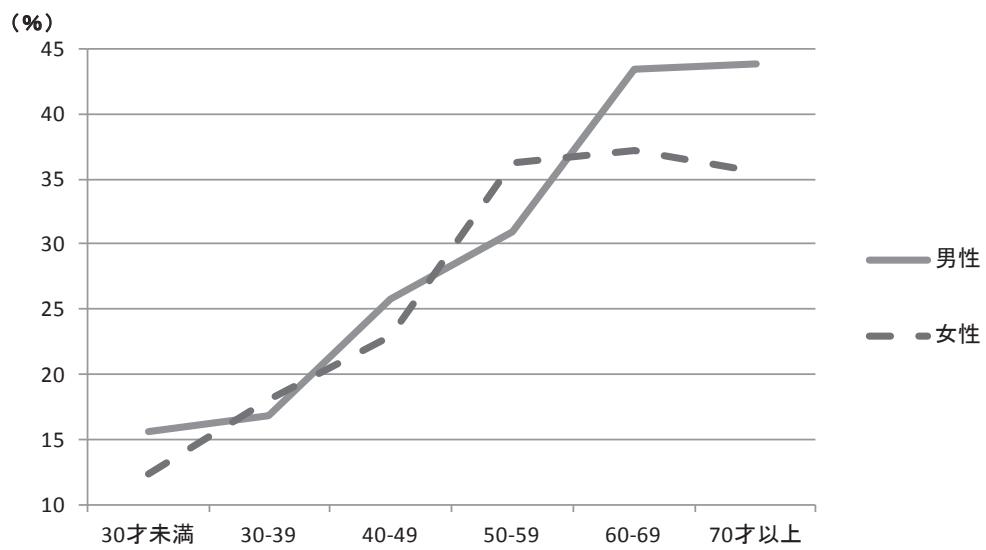
（資料）「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より
筆者作成

図15 年齢階層別 団体参加率（地縁的な活動）



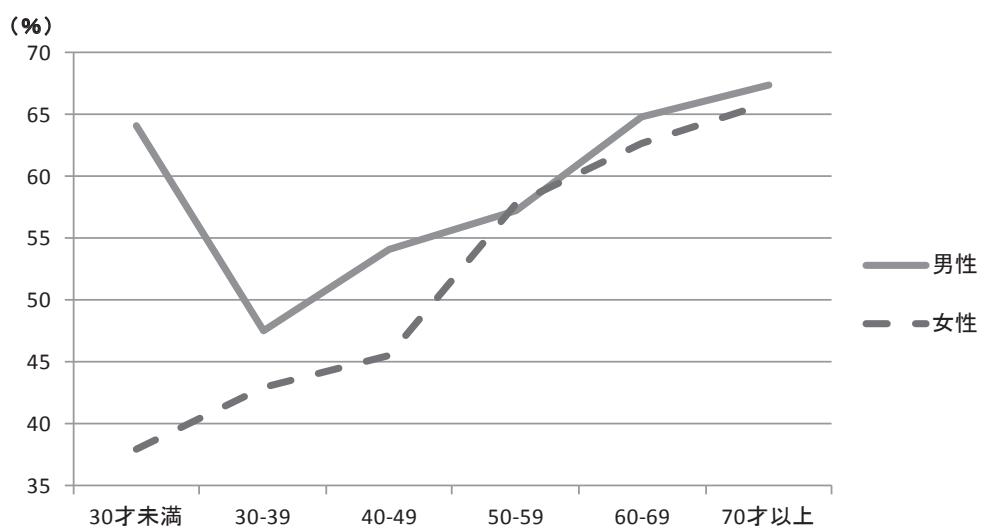
（資料）「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より
筆者作成

図16 年齢階層別 団体参加率（ボランティア・NPO・市民活動）



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より
筆者作成

図17 年齢階層別 団体参加率（スポーツ・趣味・娯楽）



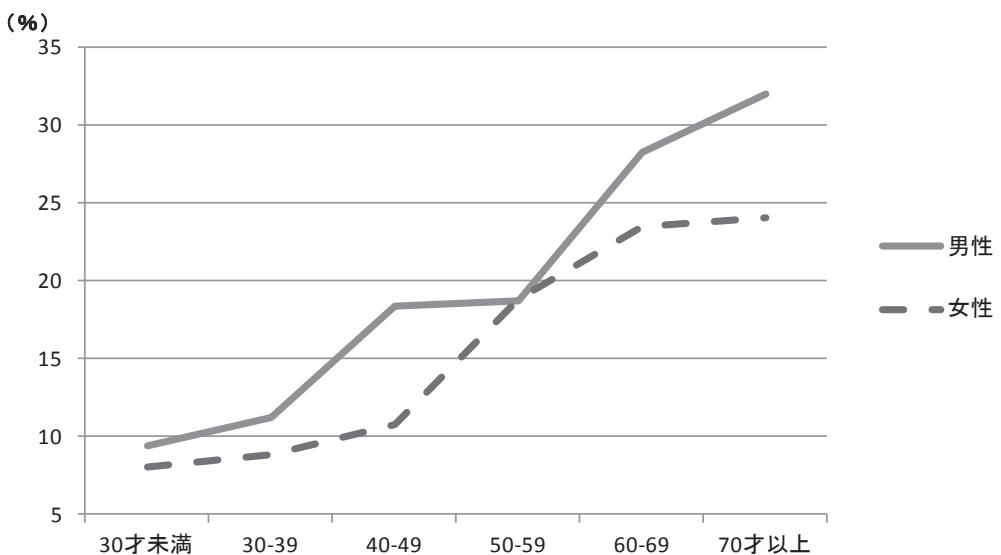
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より
筆者作成

認知的・社会関係資本

本調査では認知的・社会関係資本として、「一般的信頼」「特定化信頼」「一般的互酬性」「特定化互酬性」を尋ねているが、「特定化信頼」は組織に対する信頼（「学校・病院等の公的機関等」「警察や交番等」「市役所・町村役場等」「自治会等の地縁団体」「ボランティア・NPO・市民活動団体」「勤務先」と人に対する信頼（「友人・知人」「近所の人々」「家族」「親戚」「同僚」）に分け、より詳細に調べている。

「一般的信頼」は、図19に示されるように、本調査では男性四〇歳代の一般的信頼が一二%と極めて低いが、五〇歳代で回復し男女同水準となり、六〇歳代以降では逆に女性が大幅な低下をみせている。また、図20に示されるように一般的互酬性では、女性が一貫して男性よりも高いが、逆に特定化互酬性では二〇歳代を除き、男性の方が高い。一般的信頼と互酬性では、性差は年齢階級別に極めて複雑な変化をしており、この背景は詳らかでない。ただし、人に対する「特定化信頼」（図21、図22）では「近所の人々」「友人・知人」では女性が男性よりも高く、「同僚」への信頼は男性の方が高い。

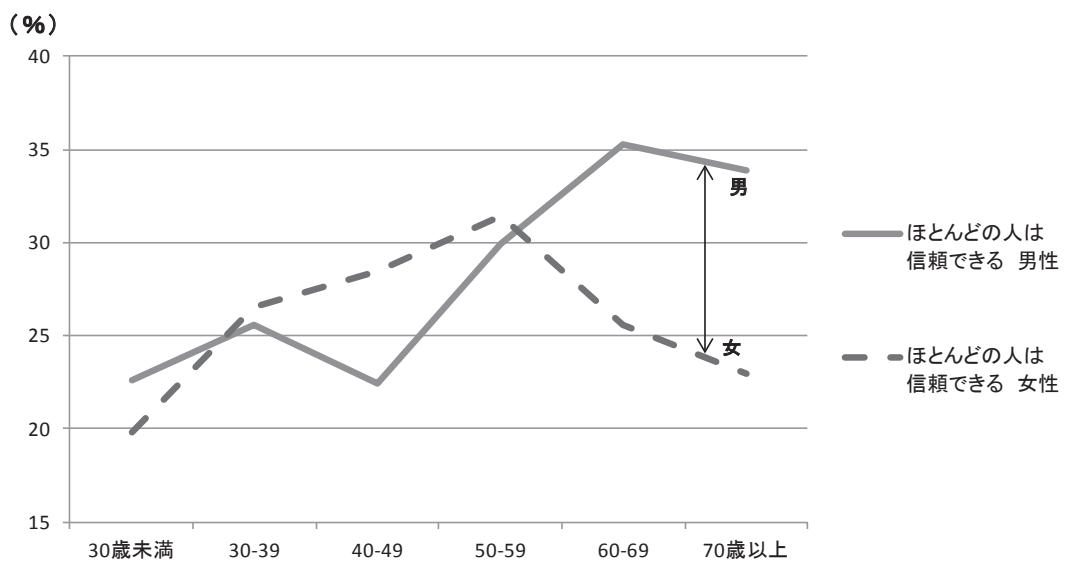
図18 年齢階層別 団体参加率（その他の団体活動）



（資料）「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より
筆者作成

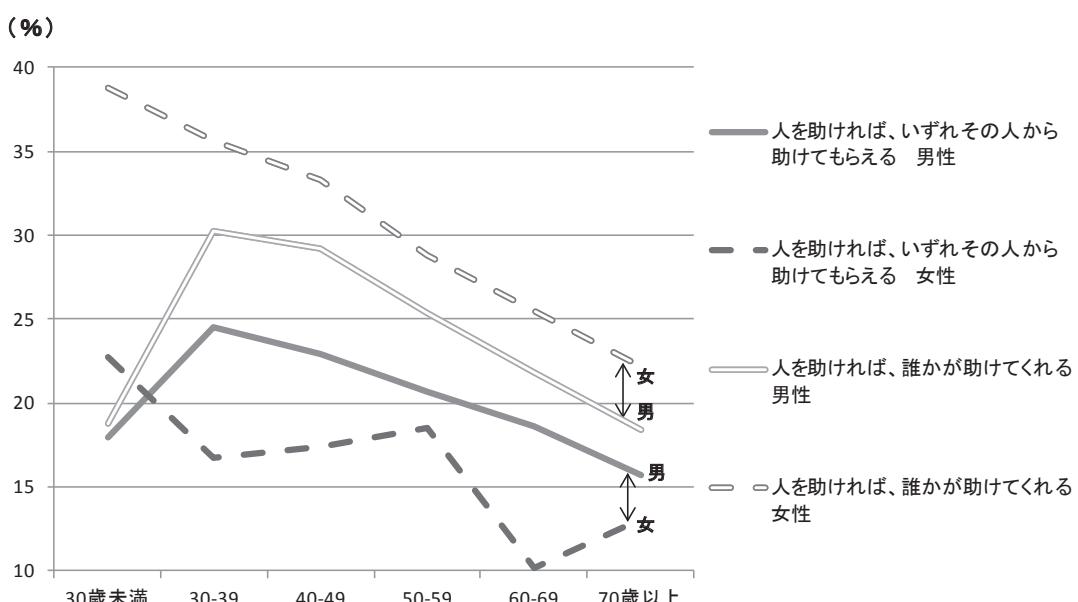
一〇一三年全国調査と一〇〇三年全国調査からみた社会関係資本の年齢階層別変化（稻葉）
一七五（九一五）

図19 年齢階層別 一般的信頼



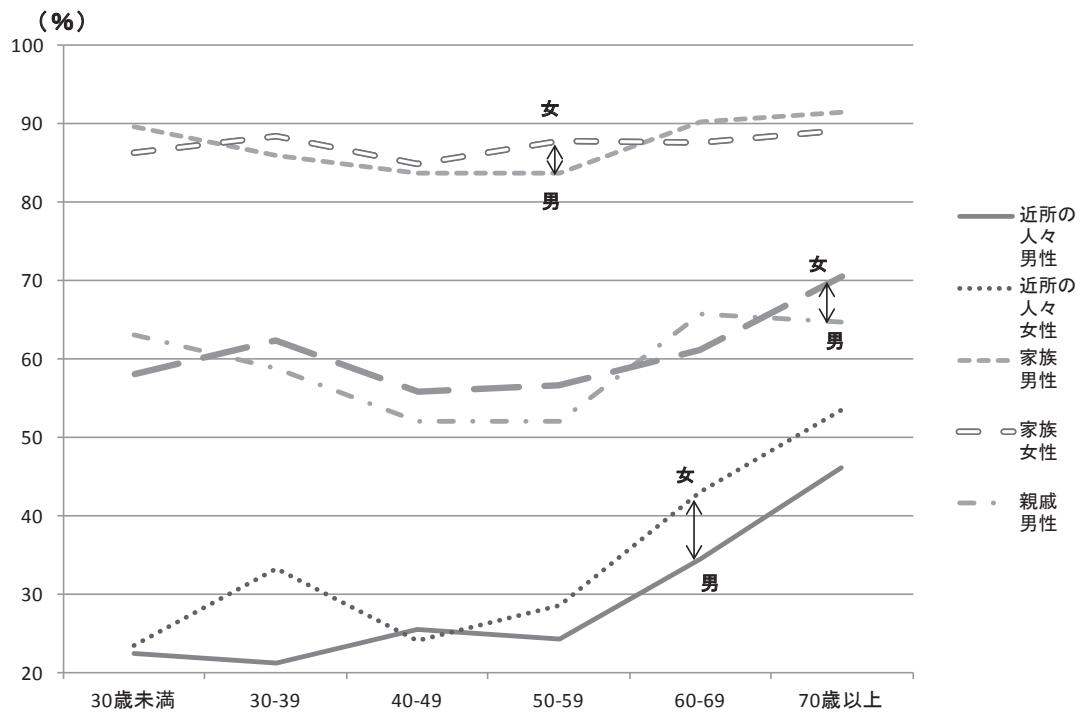
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より
筆者作成

図20 年齢階層別 特定化互酬性と一般的互酬性



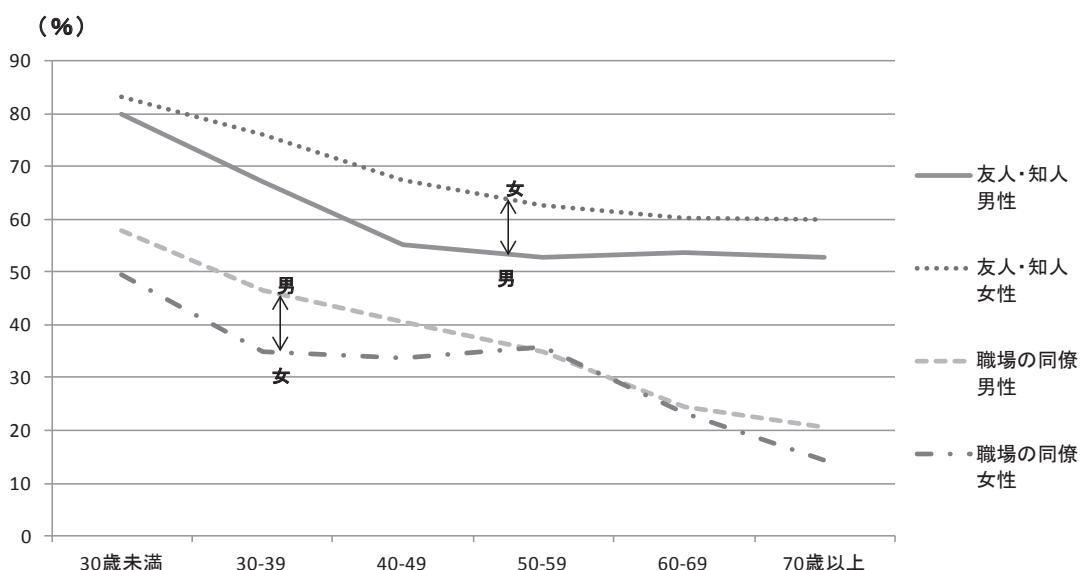
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より
筆者作成

図21 年齢階層別 特定化信頼—対人①



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より
筆者作成

図22 年齢階層別 特定化信頼—対人②



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より
筆者作成

四・年齢階層別にみた社会関係資本の

経年比較

値である。

構造的・社会関係資本

二〇一三年調査の設問は基本的に二〇〇三年に内閣府国民生活局が株式会社日本総合研究所へ委託して実施したソーシャル・キャピタル調査研究会（委員長 山内直人 大阪大学教授）アンケート調査（WEB調査N=1000、郵送法調査N=1878）に準拠している。また、二〇一〇年には筆者が郵送法による全国調査（N=1599）を実施している。両調査の設問の大部分は今回実施した二〇一三年調査にも含まれているので、これらの調査との比較が可能である。以下ではこれら二調査の比較を通じて、社会関係資本の二〇〇三年から二〇一三年の間の変化を年齢階層別にみていくたい。ただし、年齢階層別のサンプル数は二〇〇三年調査、二〇一〇年調査、それぞれ二〇歳代三五九と一八三、三〇歳代三〇六と二六二、四〇歳代三〇五と二六七、五〇歳代三四五と二七七、六〇歳代三四七と三七二、七〇歳代一二一と二三七と、いずれも母集団推計には十分ではない。したがって、本稿での値はあくまでも参考

繰りかえし述べているように、本調査では構造的社会関係資本として、「近所づきあいの程度」「近所づきあいの頻度」「友人・知人とのつきあいの頻度」「親戚・親類とのつきあいの頻度」「同僚とのつきあいの頻度」「地縁的な活動の参加率」「スポーツ・趣味・娯楽活動への参加率」「ボランティア・NPO・市民活動への参加率」「その他団体活動への参加率」の九つの設問を設けている。このうち「近所づきあいの程度」（図23）、「近所づきあいの頻度」（図24）は、年齢階層が上がるほど上昇するが、いずれも二〇〇三年から二〇一三年の間に六つの年齢階層全てで低下している。特に四〇歳代と五〇歳代での低下が大きい。「近所づきあいの程度」のなかの選択肢である「隣の人が誰かも知らない」（図25）の比率は若年層ほど大きく上昇している。加えて「近所づきあいの頻度」の選択肢である「つきあいは全くしていない」の比率（図26）も同様の傾向がみられる。

図23 年齢階層別 近所づきあい（生活面で協力＋日常的に立ち話）

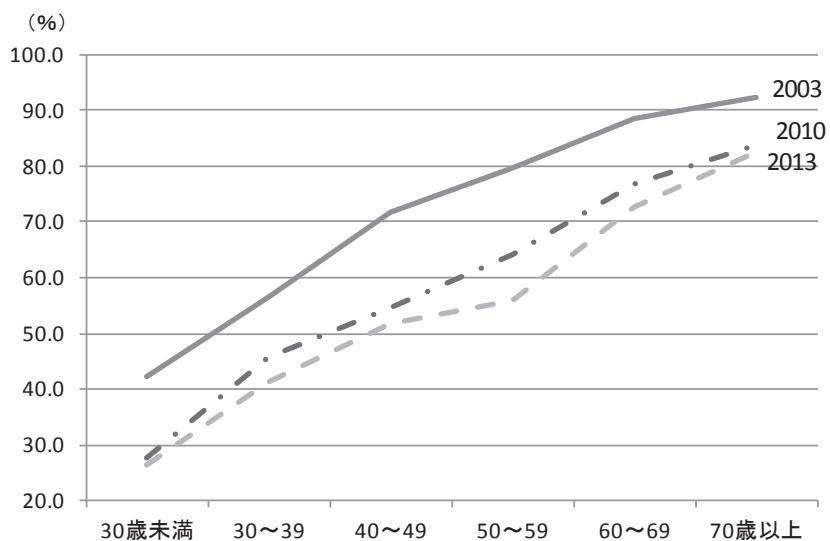


図24 年齢階層別 近所づきあい（かなり多くの人＋ある程度の人数）

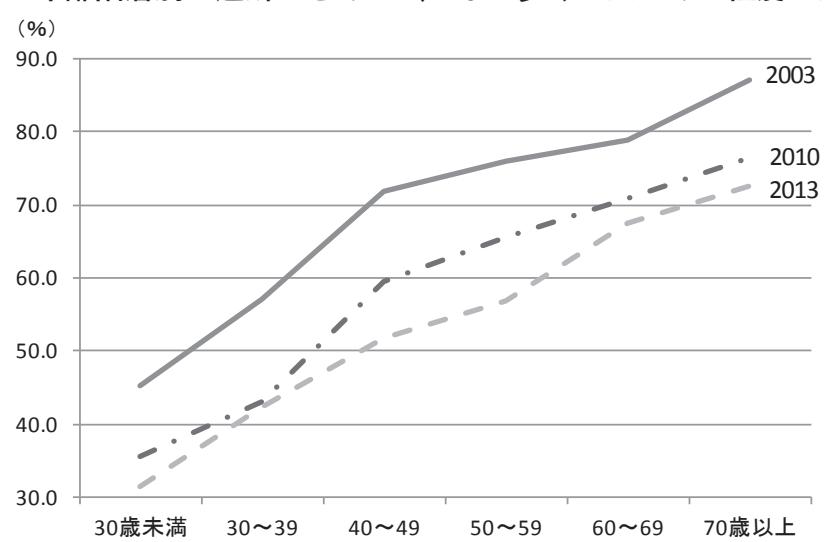


図25 近所づきあいの人数「隣の人がだれかも知らない」

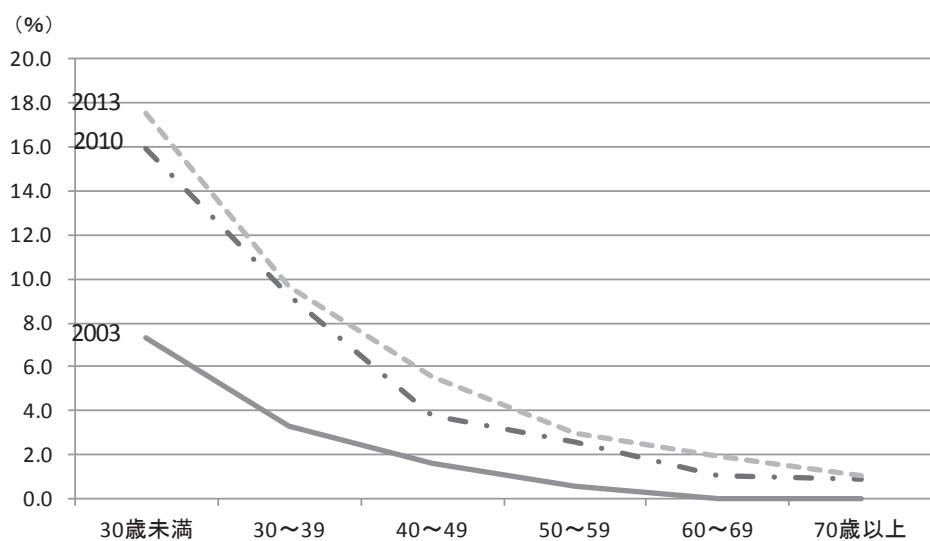


図26 近所づきあいの頻度「つきあいは全くしていない」

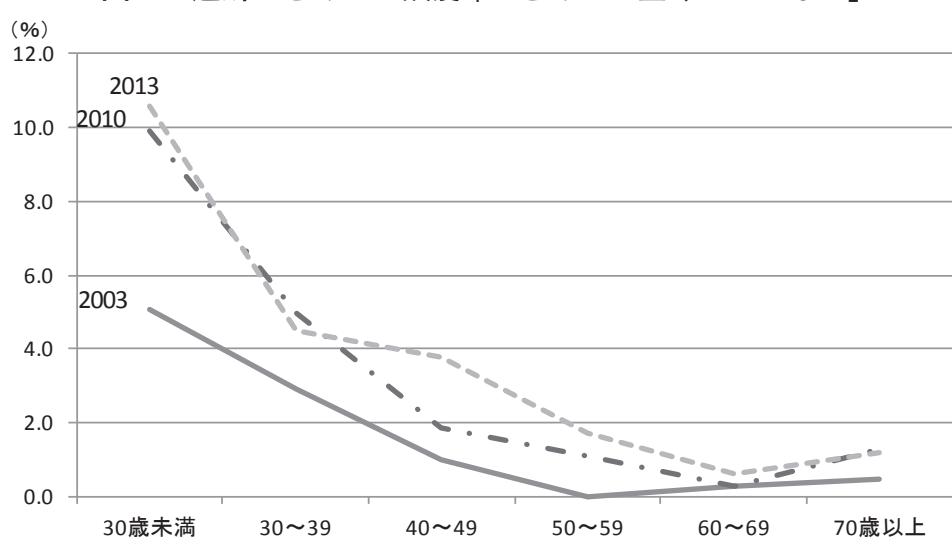
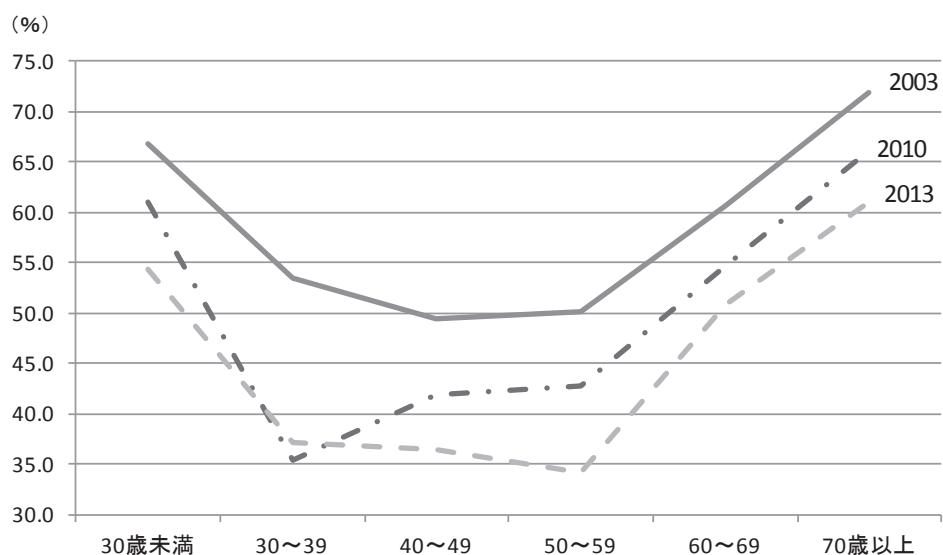
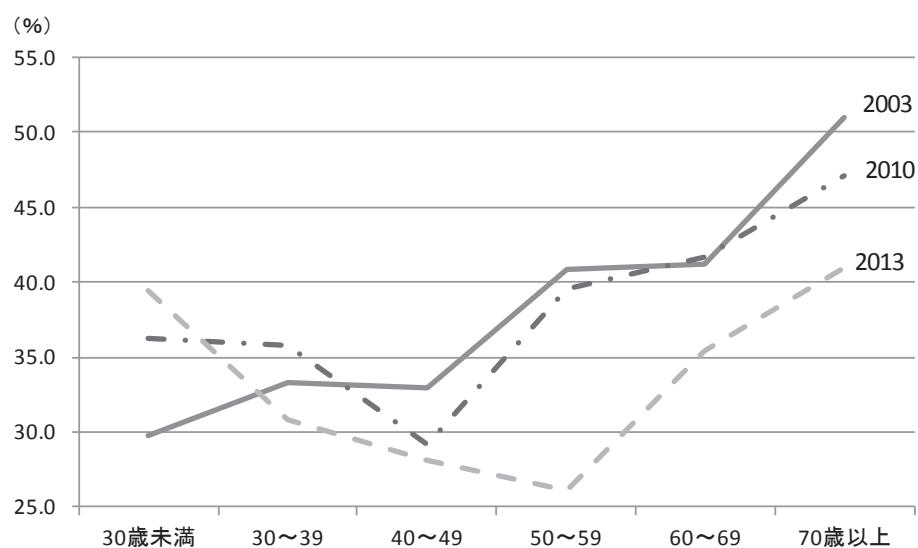


図27 年齢階層別 つきあい（友人・知人）



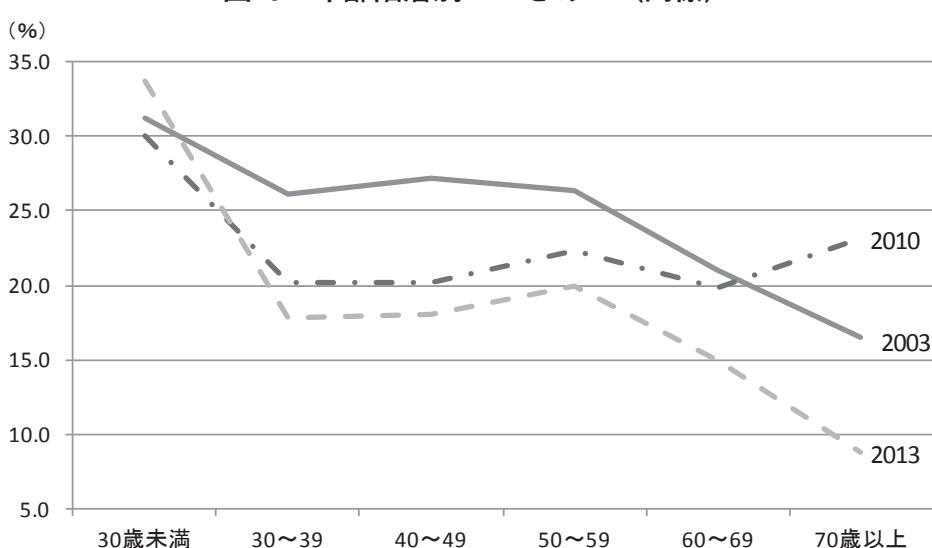
(注) 「日常的にある」と「ある程度頻繁にある」の合計

図28 年齢階層別 つきあい (親戚・親類)



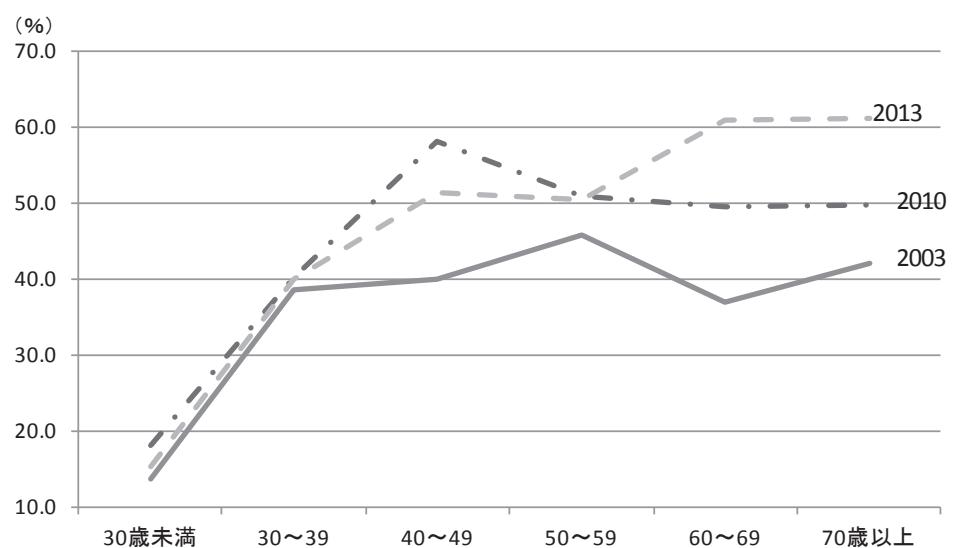
(注) 「日常的にある」と「ある程度頻繁にある」の合計

図29 年齢階層別 つきあい (同僚)



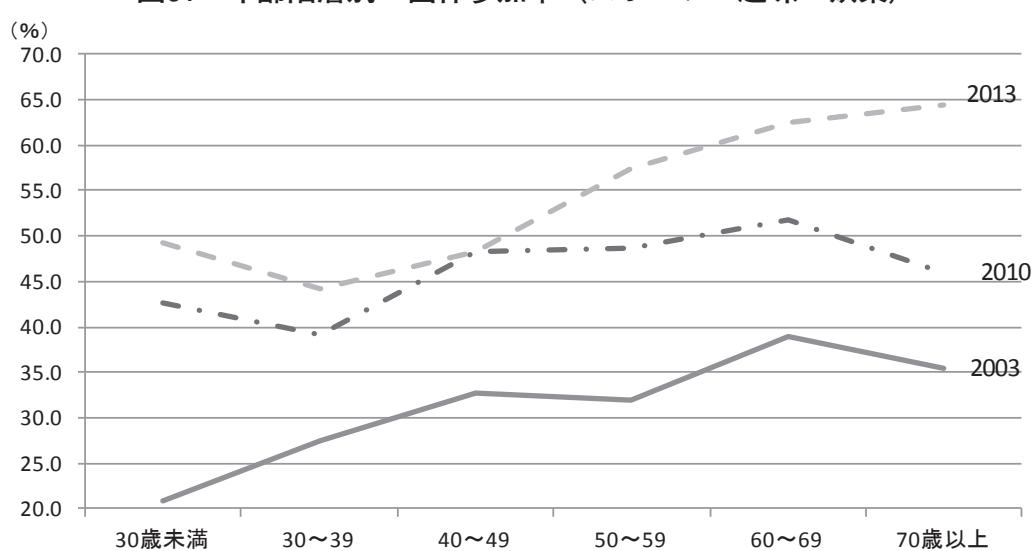
(注) 「日常的にある」と「ある程度頻繁にある」の合計

図30 年齢階層別 団体参加率（地縁的な活動）



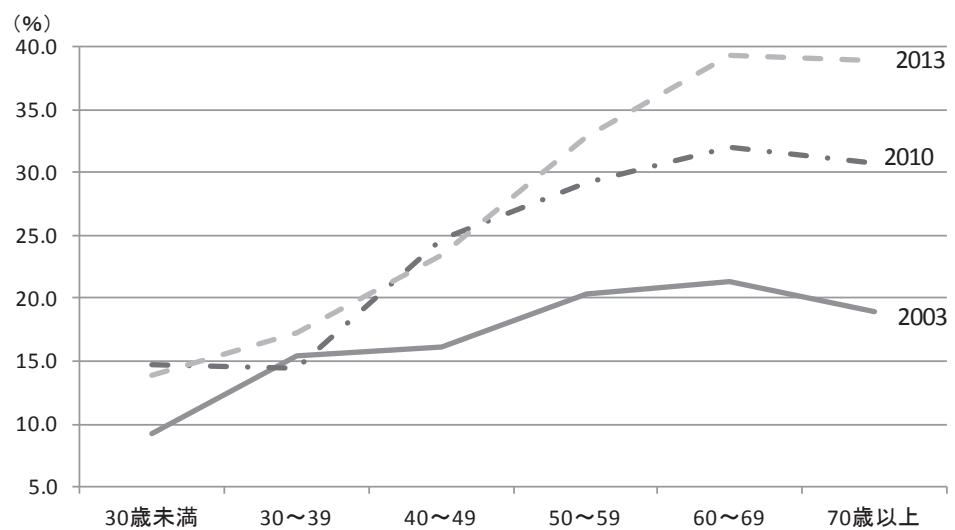
(注) 100 - (活動していない、欠損値の割合) で参加率を算出

図31 年齢階層別 団体参加率（スポーツ・趣味・娯楽）



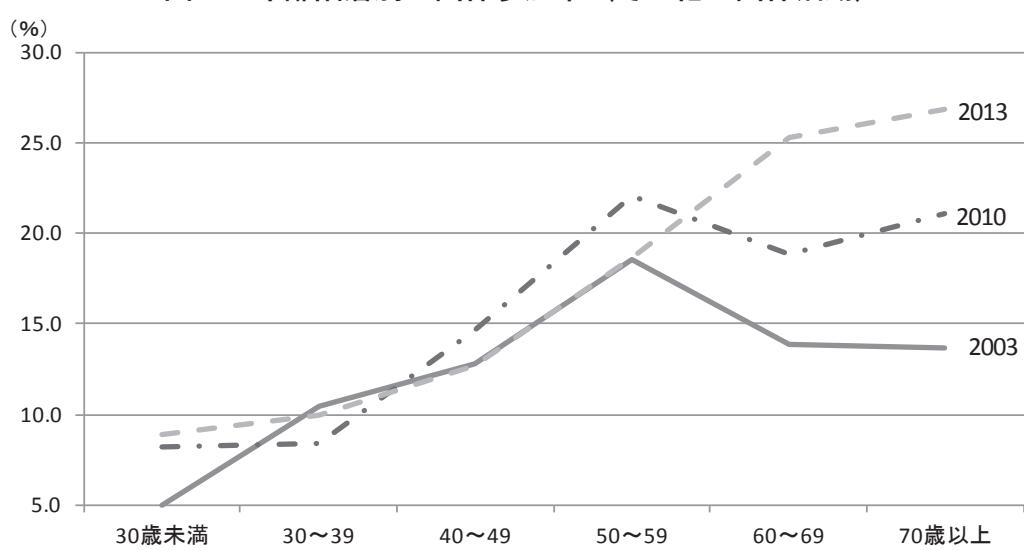
(注) 100 - (活動していない、欠損値の割合) で参加率を算出

図32 年齢階層別 団体参加率 (ボランティア・NPO・市民活動)



(注) 100 - (活動していない、欠損値の割合) で参加率を算出

図33 年齢階層別 団体参加率 (その他の団体活動)



(注) 100 - (活動していない、欠損値の割合) で参加率を算出

「特定化信頼」「一般的互酬性」「特定化互酬性」を尋ねているが、「特定化信頼」は組織に対する信頼（「学校・病院等の公的機関等」「警察や交番等」「市役所・町村役場等」「自治会等の地縁団体」「ボランティア・NPO・市民活動団体」「勤務先」と人に対する信頼（「友人・知人」「近所の人々」「家族」「親戚」「同僚」）に分け、より詳細に調べている。

図34に示されるように、「一般的信頼」は一九〇〇三年

から二〇一〇年にかけて、全年齢階層で上昇している。また二〇一二年も、二〇歳代と四〇歳代を除き、二〇〇三年の水準よりも高い。二〇〇三年調査では四〇歳代が一番高く、一〇年後の二〇一二年調査では五〇歳代が一番高い。二〇〇三年調査の四〇歳代は一九六三年から七三年の高度成長期に生まれた世代であるが、高度成長期における幼少期の体験が一般的信頼についての前向きの評価をもたらしているのかもしれない。しかし、特定の人や組織への「特定化信頼」は総じて一九〇〇三年から二〇一二年の間、ほぼ全年齢階層で低下している。ただし、対組織への「特定化信頼」は、二〇〇三年から二〇一〇年の変化は軽微で、二〇一〇年から二〇一二年の間の低下が大きい。たとえば、「市役所・町役場等」

（図35）、「学校・病院等の公的機関等」（図36）、「自治会などへの地縁団体」（図37）への信頼は、一九〇〇三年と二〇一〇年ではほとんど変化がないが、二〇一〇年から二〇一二年にかけて全年齢階層で大幅に低下している。また、「警察や交番等」（図38）への信頼は一九〇〇三年から二〇一〇年にかけてはむしろ上昇し、二〇一〇年以降大幅な低下となっている。

「特定化信頼」の対人についても、対組織と同様に二〇〇三年から二〇一二年の一〇年間を取れば、ほとんどの年齢階層で低下しているが、二〇〇三年から二〇一〇年の変化は必ずしも一律低下ではない。「友人・知人」への信頼（図42）は二〇〇三年から二〇一〇年の間二〇歳代から四〇歳代にかけては、むしろ二〇一〇年水準の方が高い。同様の傾向は「家族」（図43）、「親戚」（図44）、「同僚」（図45）への信頼でも見られる。換言すれば、「特定化信頼」は対組織・対人ともに、二〇〇三年から二〇一〇年までの変化は比較的軽微であり、二〇一〇年以降大幅低下となっている。

図34 一般人への信頼「ほとんどの人は信頼できる」

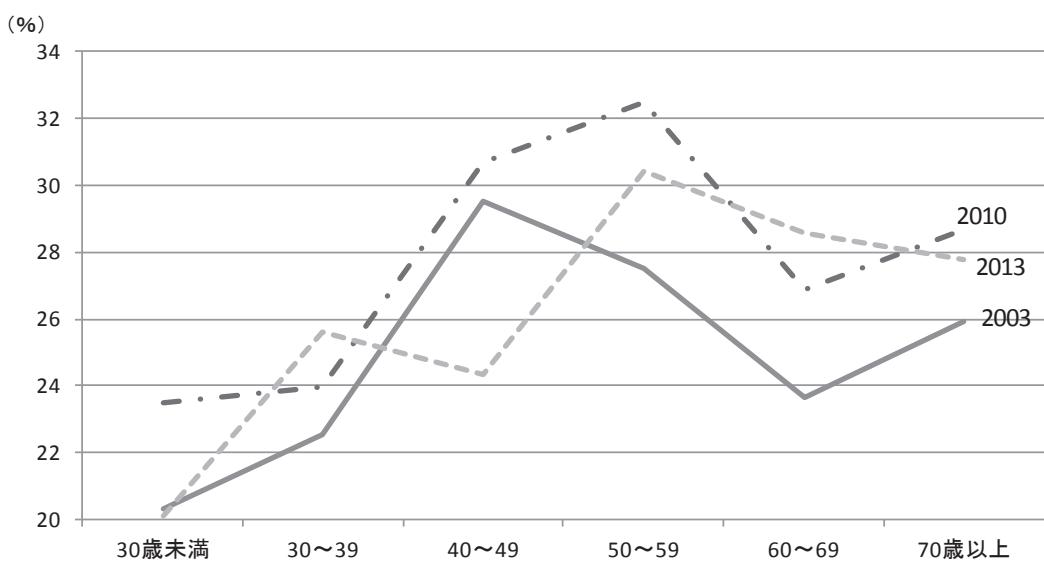
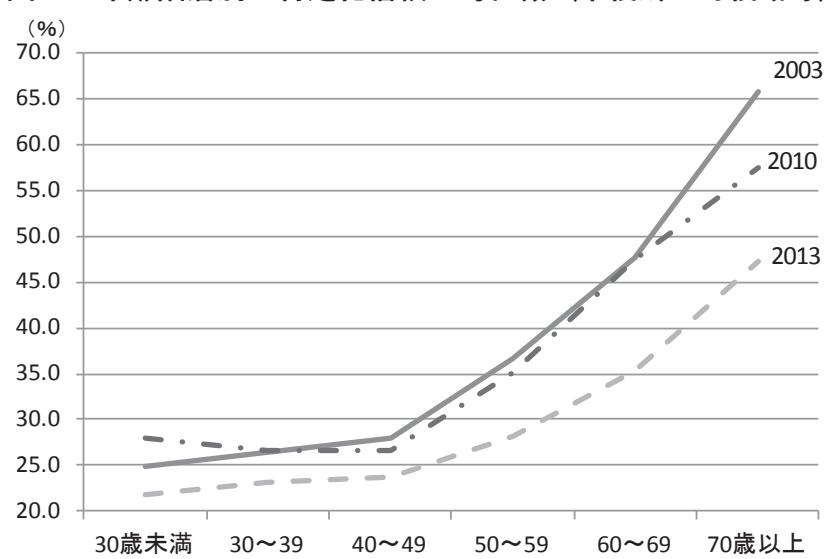
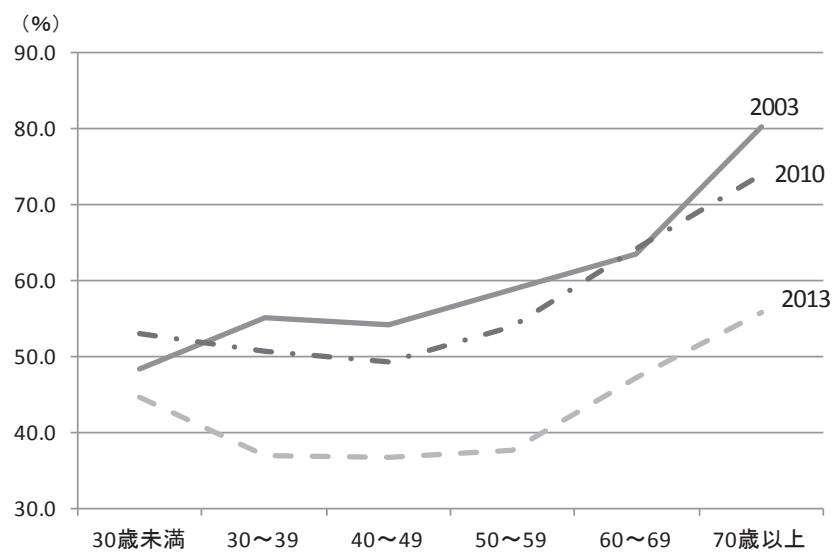


図35 年齢階層別 特定化信頼—対組織（市役所・町役場等）



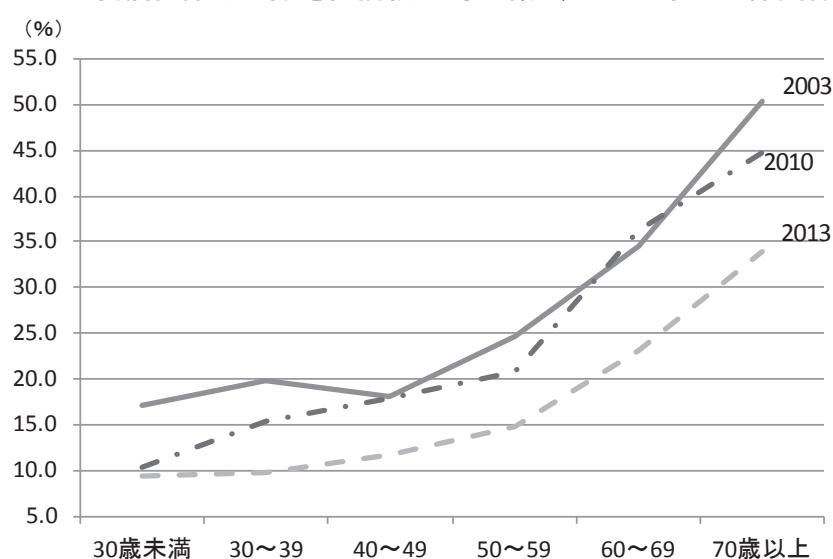
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図36 年齢階層別 特定化信頼対組織（学校・病院等の公的機関等）



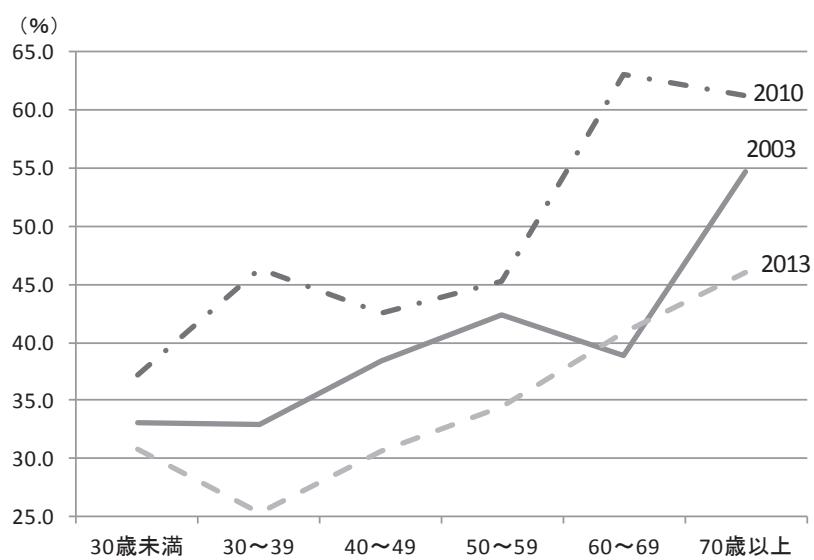
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図37 年齢階層別 特定化信頼一対組織（自治会等の地縁団体）



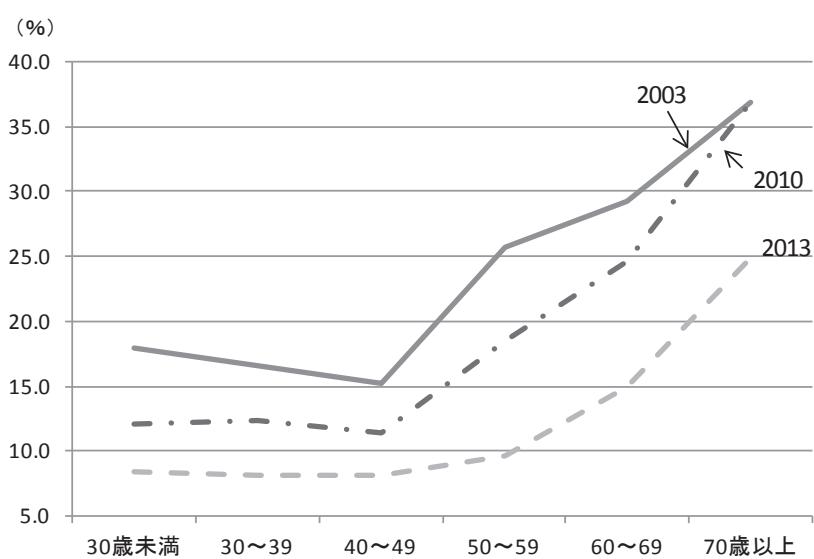
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図38 年齢階層別 特定化信頼—対組織（警察や交番等）



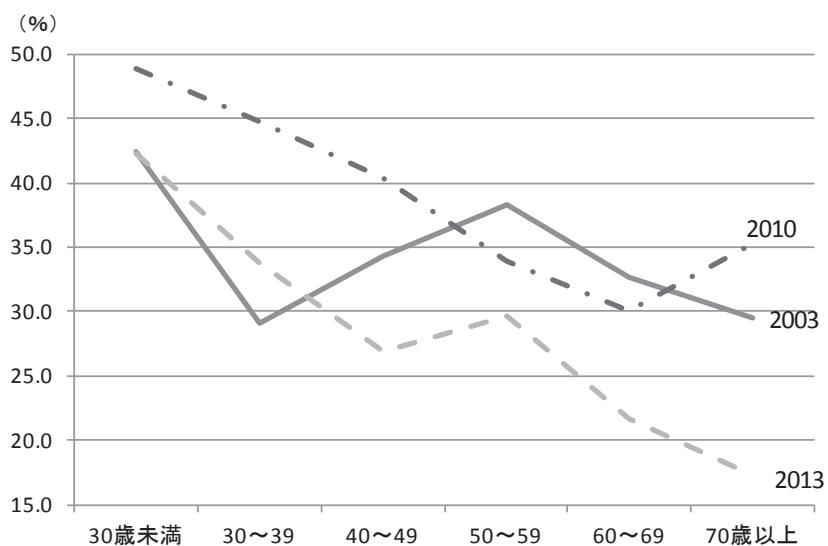
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図39 年齢階層別 特定化信頼対組織（ボランティア・NPO・市民活動団体）



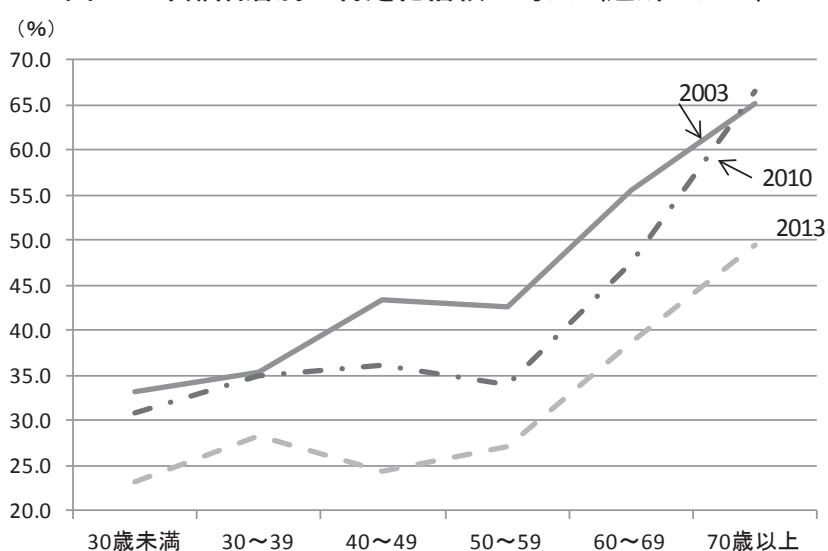
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図40 年齢階層別 特定化信頼—対組織（勤務先）



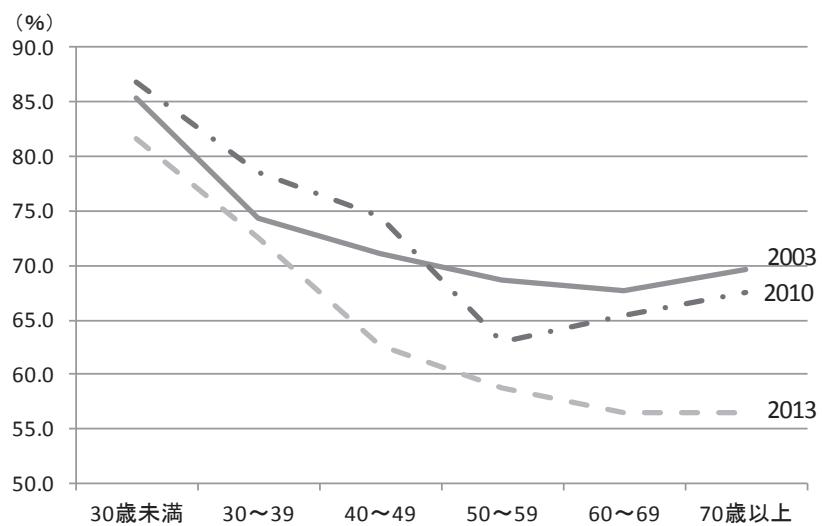
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図41 年齢階層別 特定化信頼—対人（近所の人々）



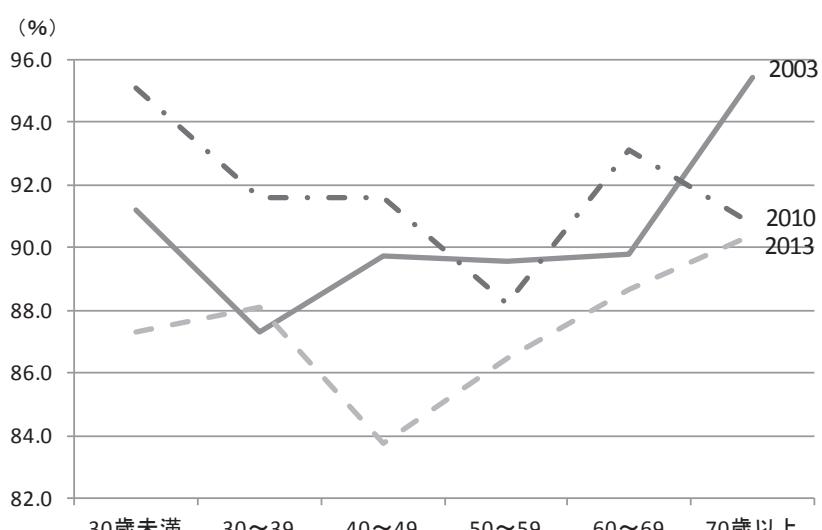
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図42 年齢階層別 特定化信頼—対人（友人・知人）



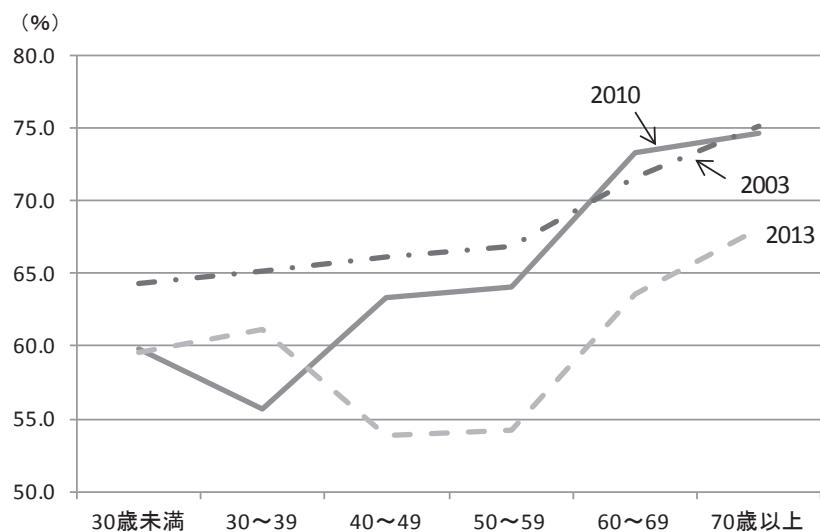
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図43 年齢階層別 特定化信頼—対人（家族）



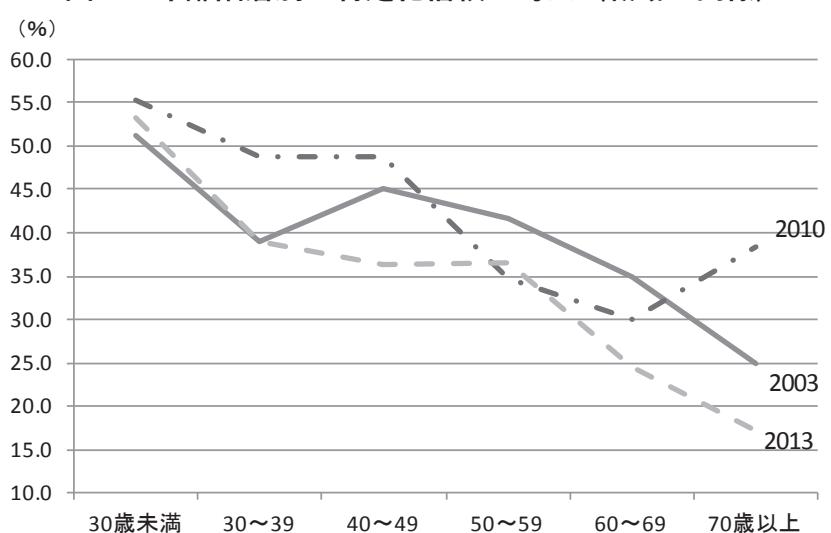
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図44 年齢階層別 特定化信頼—対人（親戚）



(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図45 年齢階層別 特定化信頼—対人（職場の同僚）



(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

五・まとめ

本稿では筆者が実施した二〇一三年全国社会関係調査（経年変化では二〇〇三年調査、二〇一〇年調査も用いて）の個票データを用いて、年齢階層別のクロス集計表から以下のような点を見出した。

①ネットワークや団体参加などの構造的・社会関係資本については、総じていえば、年齢階層が上がるほどつきあいや団体参加の頻度が上がる。その一方で、信頼や互酬性などの認知的な社会関係資本については、年齢階層が上がれば上がるほど高水準になるわけではない。むしろ、社会全体へ対する一般的な信頼は壮年期がピークで、六〇歳代以降は低下傾向がみられる。また、特定化信頼は、同僚や友人・知人への信頼は年齢が上がると低下する。同様に互酬性は、一般的な信頼と反対に、若年層のほうが壮年層、高齢層よりも高い。

②「生活に満足」の比率はどの年齢階層でも五割を超える、年齢階層別には大きな差はみられないが、四〇歳代、五〇歳代が五割と最も低く、六〇歳代で上昇し、七〇歳代では六割を越える。生活満足度が年齢階層にかかわら

ず高水準であるが、「孤立への懸念」も各年齢階層で三割前後と比較的高く、六〇歳代で「五%程度へ低下するが、七〇歳代で再び三割が「孤立への懸念」がある」としている。同様の傾向は「家庭内の人間関係」「近隣での人間関係」でもみられ、前者は二割前後、後者一割前後の水準で、全年齢階層共通の問題・心配事となっている。孤立を含めた人間関係への懸念は全年齢階層共通であり、人生を通じて変わらない悩みの種なのかもしれない。

③年齢階層別に寄付（金銭+現物）した者の比率をみると、「各種募金」への参加率が最も高い。「各種募金」に次いで「まちづくり・環境保全・安全な生活・国際協力のための活動」への寄付の参加率が高く、「各種募金」や他の寄付と比べて現物の比率が比較的高い。どの分類の寄付でも、年齢階層が上がれば上がるほど、寄付への参加率が高まる。

「公共交通機関の料金を『まかす』」「賄賂」「脱税」「無資格での年金や医療給付の請求」の四つの不正に対する許容度（「認められない」の比率）については、脱税への許容度が一番低く（「認められない」とする比率が高い）、「年金・医療給付の不正受給」への許容度が最も高い。

四つの不正、いずれに対しても年齢階級が上がるほど、不正を認めないとする比率が高まるが、「脱税」「公共交通料金」については「認められない」とする比率が七〇歳代では若干低下する。また、「年金・医療給付の不正受給」については若年層の許容度が特に高く、二〇歳代では「認められない」とする比率は五六%にすぎず、年金・医療給付に関するモラル低下が顕著である。

④心の健康を表すK-6は一〇歳代が最も高く、その後六〇歳代まで年齢を重ねるごとに低下しているが、身体の健康を表す主観的健康感は三〇歳代を底にその後年齢階層が上がるごとに一貫して上昇しており、七〇歳代ではほぼ三人に一人が健康ではない状態となっている。心の健康は年齢と順相関で年を取ると改善するが、身体の健康は年齢と逆相関で年をとると悪化する。身体の健康と年齢の関係は当然であるが、心の健康と年齢の順相関は、若年層を囲む環境がいかに過酷であるかを示唆しているようにも解釈できよう。

⑤男女別には、構造的・社会関係資本は、身近な人々とのつきあいは女性の方が密であるが、団体参加率は男性のほうが高い。

⑥二〇〇三年から二〇一三年までの変化をみると、「近所づきあいの程度」、「近所づきあいの頻度」は、いずれも二〇〇三年から二〇一三年の間に六つの年齢階層すべてで低下している。特に四〇歳代と五〇歳代での低下が大きい。特に「近所づきあいの程度」のなかの選択肢である「隣の人が誰かも知らない」の比率は若年層ほど大きく上昇している。加えて「近所づきあいの頻度」の選択肢である「つきあいはまったくしていない」の比率も同様の傾向がみられる。また、「友人・知人とのつきあいの頻度」も、二〇〇三年から二〇一三年度の間、全年齢階層で低下している。特に、四〇歳代以上では二〇一〇年と二〇一三年の間も低下している。「親戚・親類とのつきあいの頻度」は二〇一〇年から二〇一三年の間の低下が大きく、「同僚とのつきあいの頻度」は二〇〇三年から二〇一三年の一〇年で、二〇歳代を除き全年齢階層で低下している。しかし、団体参加率は、四つのタイプの活動のうち、「ボランティア・NPO・市民活動」と「スポーツ・趣味・娯楽活動」は全年齢階層で参加率なべて高齢になるほど参加率が上昇している。四つのタイプの活動のうち、「ボランティア・NPO・市民活動」と「スポーツ・趣味・娯楽活動」は全年齢階層で参加率

が上昇した。前者は四十歳代以降の参加率上昇が顕著であるが、後者は二〇歳代の若年層も含め全ての年齢階層で大幅な上昇がみられる。「地縁的な活動」は四〇歳代以降の参加率が上昇している。また、「その他の団体活動」では、六〇歳代、七〇歳代での上昇が顕著である。

「一般的信頼」は二〇〇三年から二〇一〇年にかけて、全年齢階層で上昇している。また二〇一三年も、二〇歳代と四〇歳代を除き、二〇〇三年の水準よりも高い。二〇〇三年調査では四十歳代が一番高く、一〇年後の二〇一三年調査では五〇歳代が一番高い。二〇〇三年調査の四〇歳代は一九六三年から七三年の高度成長期に生れた世代であるが、高度成長期における幼少期の体験が一般的信頼についての前向きの評価をもたらしているのかもしれない。しかし、特定の人や組織への「特定化信頼」は総じて二〇〇三年から二〇一三年の間、ほぼ全年齢階層で低下している。ただし、「特定化信頼」は対

組織・対人ともに、二〇〇三年から二〇一〇年までの変化は比較的軽微であり、二〇一〇年以降大幅低下となっている。

謝辞

本調査は平成二五年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（A））「ソーシャル・キャピタルの政策含意－その醸成要因と地域差の研究」（課題番号二四二四三〇四〇研究代表者：稲葉陽二）を受けて実施したもの。研究分担者の石田光規先生、石田祐先生、菅野剛先生、西川雅史先生、露口健司先生から貴重な助言を賜りました。内閣府国民生活局から二〇〇三年調査の個票データの提供を受けました。助成を賜った文部科学省と内閣府に篤く御礼申し上げます。また、査読の労をお取りいただいた先生方からも貴重なご指摘をいただき、感謝しております。なお、本稿の資料を作成していただいた緒方淳子、草ヶ谷明日美、西谷直樹、小笠原宜子の各氏に対しても記して謝意を表させていただきます。

参考文献

- 稲葉陽二（二〇一四）「日本の社会関係資本は毀損したか－二〇一三年全国調査と二〇〇三年全国調査からみた社会関係資本の変化－」『政経研究』第五一巻第一号、日本大学法学会、一一二〇頁。

稻葉陽二（二〇一二）「暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」二〇一〇年社会関係資本調査の概要」『政経研究』第四八卷第一号、日本大学法学会、一〇七一三〇頁。

稻葉陽二（二〇〇五）「ソーシャル・キャピタルの経済的含意—心の外部性とどう向き合うか」『計画行政』日本計画行政学会、第二八卷四号、一七一三〇頁。

稻葉陽二（二〇〇八）「序章 ソーシャル・キャピタルの多面性と可能性」稻葉陽二（編著）『ソーシャル・キャピタルの潜在力』日本評論社、一一一三〇頁。

内閣府国民生活局（二〇〇三）『ソーシャル・キャピタル－豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』国立印刷局。

以上

(1) 社会関係資本の定義は稻葉（二〇〇五・二〇〇八）を参照されたい。

(2) K6値。

(3) 社会関係資本の構成要素は信頼、互酬性、ネットワークなど多岐にわたるが、それらを包括的に対象とした全国社会調査は二〇〇三年内閣府国民生活局調査（郵送法とWEB調査併用）、二〇〇五年内閣府経済社会総合研究所調査（WEB調査）、二〇〇七年日本総研調査

（WEB調査）、二〇〇八年稲葉・日本総研調査（WEB調査）、稲葉による二〇一〇年調査（郵送法）、今回の二〇一三年調査（郵送法）のみである。

(4) 平成二五年七月二三日付承認番号二五一一一〇。

(5) 本稿で記述している集計値は欠損値を含めた総数を分子として算出している。

(6) 調査結果の概要は、内閣国民生活局（二〇〇三）参考照。同調査は、郵送法調査とWEB調査を同一の質問票を用いて実施しているが、本稿ではそのうち郵送法のみを扱う。

暮らしの安心・信頼・社会参加 に関するアンケート調査票

単純集計結果

本調査は、皆さん、暮らしの安心・信頼・社会参加に関するものです。

<調査企画> 日本大学法学部 稲葉陽二研究室

- ご回答は、必ずて名のご本人がご記入ください。
- ご回答は、あてはまるものの番号に○をつけていだく形式です。
- ご回答は、すべて個人のお名前と切り離して統計的に処理しますので、内容が外部にもれることは決してありません。
- ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れ、10月31日（木）までにご投函ください。
- ご協力いただきたい方には、後日、おれに図書カード（500円分）をお送りいたします。（11月下旬発送予定）
- ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください。

アンケートの実施に関するお問い合わせ窓口

（調査委託機関）一般社団法人 中央調査社
リーダー 伊藤：0120-48-5351、0120-49-3023
(受付時間：平日9～12時、13～17時)

アンケートの内容に関するお問い合わせ窓口
日本大学 法学部 稲葉陽二研究室
電話：03-5275-8639（直通）

1. 地人への信頼等についてお問い合わせます

問1 - (1) あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。それとも信頼できませんか。あなたの考え方方に近いと思うレベルの数値を1つ選び、その数字に○印をつけさせてください。(Oは1つ)
N=3,575 平均4.9 (10わからぬ1條)

1 ほんんど の人は信頼で きる 5.9%	2 3 4 5 両者 の間 7.0% 14.0% 11.4% の中間 31.2%	6 7 8 9 注意する 5.7% 5.3% 2.4% の越したこ とはない 13.6%	10 わか らない 2.1%
-----------------------------	--	--	----------------------

問1 - (2) それでは、「派先」や「見知らぬ土地」で出会う人に 대해はいかがでしょうか？
(Oは1つ)
N=3,575 平均5.3 (10わからぬ1條)

1 ほんんど の人は信頼で きる 4.9%	2 3 4 5 両者 の間 5.7% 11.4% 9.9% の中間 27.2%	6 7 8 9 注意する 6.1% 3.2% の越したこ とはない 20.6%	10 わか らない 2.7%
-----------------------------	---	---	----------------------

問1 - (3) あなたは、人を助ければ、いずれその人から助けてもらえると思いますか。
(Oは1つ)
N=3,575
無回答=1.7%

17.4% そう思う	46.9% どちらともいえない	34.7% そうは思わない
------------	-----------------	---------------

問1 - (4) あなたは、人を助ければ、今度は自分が困っているときに誰かが助けてくれるようになさってください。(Oは1つ)
N=3,575
無回答=1.0%

26.9% そう思う	41.5% どちらともいえない	30.7% そうは思わない
------------	-----------------	---------------

問2 - 2. 日常的なつきあいについてお問い合わせます

問2 - (1) あなたは、ご近所の方などどのようにつきあいをされていますか。①と②につけて、あてはまるものをそれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。
N=3,575
無回答=1.0%

16.7% 互いに相談したり日用品の貸し借りをする程度	42.3% 日常的に立ち話をする程度	37.5% あいさつ程度の最小限のつきあいをしている
2.9% つきあいは全くしていない		

問2 - (2) つきあっている人の数(Oは1つ)
N=3,575
無回答=0.6%

12.4% 近所のかなり多くの人と面識・交流がある(おおむね20人以上)	44.4% ある程度の人と面識・交流がある(おおむね5～19人)	37.5% 近所のごく少數の人だと面識・交流がある(おおむね4人以下)
5.0% 隣の人がだれかも知らない		

問2 - (3) つきあっている人の数(Oは1つ)
N=3,575
無回答=0.8%

問2-(2) 以下の①から③について、あなたは普段どの程度の頻度でつきあいをされていていますか。

①友人・知人とのつきあい (学校や職場以外で) (○は1つ)

14.0% 日常的にある 30.3% ある程度頻繁にある 40.2% ときどきある 12.2% めったにない 1.5% 全くない (もしくは友人・知人はいない)	(毎日～週に数回程度) (年に1回～年に数回程度) (年に1回～年に数回程度) (年に1回～数年に1回程度)
N=3,575	無回答=0.8%

②親類・郷親とのつきあい (○は1つ)

9.0% 日常的にある 23.0% ある程度頻繁にある 47.0% ときどきある 17.0% めったにない 1.0% 全くない (もしくは親戚・親類はない)	(毎日～週に数回程度) (年に1回～年に数回程度) (年に1回～年に数回程度) (年に1回～数年に1回程度)
N=2,393	無回答=0.8%

3. 地域での活動状況についてお伺いします

問3-(1) あなた自身の、地域における活動状況についてお聞きします。

あなたは男性、次の①から④のよろづな活動をしてていますか。その頻度についてお答えください。

あてはまるものをそれぞれ1つ選び、その数字に○印をつけてください。

①地縁的な活動 (自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、青年会、子ども会等) (○は1つ)	0.8% 週に4日以上 9.6% 月に1日程度	2.1% 週に2～3日 28.3% 年に数回程度活動	3.4% 週に1回程度 48.2% 活動していない	6.5% 月に2～3日程度 43.1% 活動していない	12.7% 週に1回程度 13.5% 年に数回程度活動	8.8% 月に2～3日程度 4.3% 週に4日以上	無回答=1.2%
N=3,575	無回答=1.1%	無回答=3.0%	無回答=2.9%	無回答=2.9%	無回答=3.0%	無回答=2.9%	無回答=2.0%

③ボランティア・NPO・市民活動 (まちづくり、高齢者・障害者支援や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、健診など) (○は1つ) N=3,575

1.0% 週に4日以上 4.7% 月に1日程度	1.7% 週に2～3日 16.6% 年に数回程度活動	2.0% 週に1回程度 68.6% 活動していない	3.2% 月に2～3日程度 N=3,575
④その他の団体活動 (労工会・業種組合、宗教・政治など) (○は1つ) N=3,575	0.9% 週に4日以上 3.7% 月に1日程度	0.7% 週に2～3日 8.8% 年に数回程度活動	2.0% 週に1回程度 79.6% 活動していない

問3-(2) あなたが現在ちつとも頻繁に参加している活動を1つだけ選び、その数字に○印をつけてください。(○は1つ)	無回答=1.8% N=3,575
11.1% 地域的活動 7.3% その他の団体活動	32.6% スポーツ・趣味・娛樂活動 40.9% 地域での活動には参加していない

問3-(3) 前問で5以外をお選択した方のうち、あなたが現在もつとも頻繁に参加している活動についてお聞きします。次の①から④について、あてはまるものをそれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。	無回答=0.8% N=3,575
①男女の割合 (○は1つ)	13.0% 女性のみ 27.1% 男女(性別)に割合

②居住地域 (○は1つ)	50.1% 别の市区町村の人もいる
③年齢構成 (○は1つ)	37.1% ほぼ同じ世代同士 47.0% 同じ市区町村の人のみ

④地位など (○は1つ)	60.0% さほどまだ社会的地位が進んでいない (年齢差が20歳以上)
N=2,019	無回答=2.9%

問3-(1) あなた自身の、地域における活動状況についてお聞きします。

あなたは男性、次の①から④のよろづな活動をしてていますか。その頻度についてお答えください。	あてはまるものをそれぞれ1つ選び、その数字に○印をつけてください。
N=3,575	無回答=1.1%

問3-(2) あなたと同じような社会的地位 (○は1つ)

33.1% あなたと同じような社会的地位 N=3,575 無回答=3.0%

問4-(5) 次の①から⑥について、過去1か月の間はどのようであったか、「いつも」から「全くない」までの5段階のうち、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)
N=3,575

	いつも	たまに	ときどき	少しばか	全くない
①神経過敏に感じましたか。	4.0%	7.0%	23.2%	28.2%	34.9%
②絶望的だと感じましたか。	1.9%	2.6%	10.4%	18.5%	63.8%
③そわそわ、落ち着かなく感じましたか。	1.8%	2.9%	15.5%	27.9%	49.3%
④気分が沈み込んで、向か話をつても気が晴れないように感じましたか。	2.2%	4.1%	15.8%	29.1%	46.0%
⑤向をするのも折りだと感じましたか。	1.9%	3.7%	14.9%	31.7%	45.1%
⑥自分が面倒のない人間にと感じましたか。	2.6%	3.2%	11.7%	21.7%	56.1%

問4-(6) 成人期以後の学習について、あなたはどのようにお考えですか。

	いつも	やや	どちら	あまり	全く	思ひも	思ひない
①成になつてからの学習が人々にまったく新しい世界を開く。	29.8%	37.9%	22.0%	6.5%	1.0%	無回答	-3.3%
②人生を通して学習を継続することで人々はよりよい市民となる。	33.2%	38.0%	19.6%	5.3%	1.0%	無回答	-3.0%
③成になつてからの学習は、仕事や昇進のようないくつかのものにつながる場合のみ、行う必要がある。	4.4%	11.2%	26.1%	31.2%	23.9%	無回答	-3.2%

問4-(7) あなたは日常の社会生活で、以下に挙げる事柄について、「うまく対処できていますか。次の①から⑨について、「そう思う」から「全く思わない」までの5段階のうち、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)
N=3,575

	そう思う	やや	どちら	あまり	全く	思ひも	思ひない	どちらも思ひない	どちらも思ひ	全く思ひ	全く思ひない
①自分の意見を持ち、それを人にうまく伝えることができる。	10.5%	36.0%	27.9%	21.0%	2.4%	無回答	-2.3%	無回答	無回答	無回答	-2.3%
②学習を通して獲得した知識や技能を、日常生活において有効に活用している。	11.3%	37.3%	29.1%	17.5%	2.7%	無回答	-2.3%	無回答	無回答	無回答	-2.3%
③新たな情報技術を、日常生活において有効に活用している。	7.8%	33.6%	33.3%	18.6%	4.1%	無回答	-2.7%	無回答	無回答	無回答	-2.7%
④初対面の相手であっても、コミュニケーションを上手にとることができる。	11.3%	32.6%	29.3%	19.2%	5.3%	無回答	-2.3%	無回答	無回答	無回答	-2.3%
⑤他者と協力してものごとを取り組むこと、困難な問題でもいたいに解決できる。	9.8%	39.2%	34.9%	11.7%	2.2%	無回答	-2.4%	無回答	無回答	無回答	-2.4%
⑥周りの人たちとの間でトラブルが起きてても、それを上手に処理できる。	4.8%	28.3%	43.4%	17.8%	3.4%	無回答	-2.3%	無回答	無回答	無回答	-2.3%
⑦自らの行動や決定を、自身が置かれている立場、自身の行動の影響等を理解したりえて行うことができる。	11.6%	45.5%	29.7%	9.3%	1.7%	無回答	-2.3%	無回答	無回答	無回答	-2.3%
⑧自分の人生設計や人生の計画を作りあげ、それを実行することができる。	5.8%	25.1%	39.2%	22.0%	5.6%	無回答	-3.3%	無回答	無回答	無回答	-3.3%
⑨ルールを理解し、建設的な議論のうえ、調整したり代案を示したりすることができる。	7.5%	35.8%	34.9%	15.6%	3.8%	無回答	-2.4%	無回答	無回答	無回答	-2.4%

5. 寄付・募金活動についてお伺いします

問5-（1）あなたは、この1年間（2012年10月～2013年9月）に現金もしくは現物による贈付をされましたか。寄付の回数・活動の種類別に、次の①から⑤のそれについてあてはまるもの全てに〇印をつけてください。

（〇はそれそれいくつでも）	寄付先の団体・活動	1. 金銭による現物による寄付をした 2. 現物による寄付をした 3. 寄付はない	無 =
①各種基金	例：赤十字社、国連飢餓基金、神戸救助会等 所：那須湯本温泉郷青年会館 目的：寄付金による運動会（あしはなはがねじまん）、主催者の子育て支援（こぶくせいじんし）に寄付して、育成（ゆきせい）する。主催者（ゆきせいしゃ）の羽根野（はねの）、コントビ（のうび）に貢献（こうせん）している各種基金等	69.2% 2.6%	26.8%
②まちづくりのための活動・環境保全のための活動・安全な生活のための活動・国際協力のための活動	例：那須温泉郷の清掃、地元の元氣祭り、まちの活性化、リサイクル、ゴミ削減、富士エス、防犯、交通安全、経済発展のための施設整備や環境設備、送り土支援等	31.7% 18.2%	49.0%
③国や地方公共団体	例：那須温泉郷の清掃、地元の元氣祭り、まちの活性化、リサイクル、ゴミ削減、富士エス、防犯、交通安全、経済発展のための施設整備や環境設備、送り土支援等	8.7% 2.3%	84.1%
④宗教団体	例：信教者や医療サークルによる施設整備、高齢者、障害者等を対象とした活動、子ども・教育を対象とした活動、スポーツ・文化・芸術による教育活動等	11.0% 1.1%	83.2%
⑤他の団体	例：信教者や医療サークルによる施設整備、高齢者、障害者等を対象とした活動、子ども・教育を対象とした活動、スポーツ・文化・芸術による教育活動等	15.2% 7.4%	74.0%

問5-（2）この1年間（2012年10月～2013年9月）に、どれくらいの現金もしくは現物を贈付・寄付・贈呈されましたか。現物によるものは相当額に換算し、1年間の絶額として、本ではかる額をつけてください。

N=3,575	
(Oは1つ)	
3. 1% 100円未満	10.2% 1万円～5万円未満
24. 7% 1,000円未満	2.0% 5万円～10万円未満
24. 1% 1,000円～5,000円未満	1.9% 10万円以上
10. 5% 5,000円～1万円未満	20.0% 寄付募金はしていない

6. 許容度についてお伺いします

問6 1から4のそれぞれについてあなたはどう思いますか。認められると思いますか、それとも認められないと思いますか。「1」は「認められない」を、「10」は「認められる」を示します。あなたの考え方方に近いと思うレベルの数字を1から

1. 〇の中からそれぞれ1つだけ選び、その数字に〇印をつけてください。																														
<p>① 資格がないのに国の年金や医療給付などを要求する。(〇は1つ) N=3,575 平均 1.9</p> <table border="1"> <tr> <td>1 認められない 65.2%</td> <td>2 3 4 5 6 7 8 9 10</td> <td>認められる 0.4%</td> </tr> <tr> <td>80.2%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="9">無回答-3.3%</td> </tr> </table>										1 認められない 65.2%	2 3 4 5 6 7 8 9 10	認められる 0.4%	80.2%									無回答-3.3%								
1 認められない 65.2%	2 3 4 5 6 7 8 9 10	認められる 0.4%																												
80.2%																														
無回答-3.3%																														
<p>② 公共交通機関の料金をこまかす。(〇は1つ) N=3,575 平均 1.3</p> <table border="1"> <tr> <td>1 認められない 9.3%</td> <td>2 3 4 5 6 7 8 9 10</td> <td>認められる 0.1%</td> </tr> <tr> <td>93.4%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="9">無回答-3.0%</td> </tr> </table>										1 認められない 9.3%	2 3 4 5 6 7 8 9 10	認められる 0.1%	93.4%									無回答-3.0%								
1 認められない 9.3%	2 3 4 5 6 7 8 9 10	認められる 0.1%																												
93.4%																														
無回答-3.0%																														
<p>③ 脱税をする。(〇は1つ) N=3,575 平均 2.9</p> <table border="1"> <tr> <td>1 認められない 81.6%</td> <td>2 3 4 5 6 7 8 9 10</td> <td>認められる 0.8%</td> </tr> <tr> <td>8.2%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="9">無回答-2.9%</td> </tr> </table>										1 認められない 81.6%	2 3 4 5 6 7 8 9 10	認められる 0.8%	8.2%									無回答-2.9%								
1 認められない 81.6%	2 3 4 5 6 7 8 9 10	認められる 0.8%																												
8.2%																														
無回答-2.9%																														
<p>④ 仕事に専念してワイドを受取る。(〇は1つ) N=3,575 平均 1.4</p> <table border="1"> <tr> <td>1 認められない 78.3%</td> <td>2 3 4 5 6 7 8 9 10</td> <td>認められる 0.7%</td> </tr> <tr> <td>9.4%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="9">無回答-3.0%</td> </tr> </table>										1 認められない 78.3%	2 3 4 5 6 7 8 9 10	認められる 0.7%	9.4%									無回答-3.0%								
1 認められない 78.3%	2 3 4 5 6 7 8 9 10	認められる 0.7%																												
9.4%																														
無回答-3.0%																														
<p>7. 最後にあなた自身のことについてお伺いします</p>																														
<p>問7-(1) あなたの性別をお答えください。(数字を記入) N=3,575</p> <table border="1"> <tr> <td>46.5% 男性</td> <td>54.5% 女性</td> </tr> </table>										46.5% 男性	54.5% 女性																			
46.5% 男性	54.5% 女性																													
<p>問7-(2) あなたの満年齢をご記入ください。(数字を記入) N=3,575</p> <table border="1"> <tr> <td>平均 53.9</td> <td>歳</td> </tr> </table>										平均 53.9	歳																			
平均 53.9	歳																													
<p>20~29歳 30~39歳 40~49歳 50~59歳 60~59歳 70歳以上 8.5% 14.3% 17.2% 17.8% 23.4% 18.7%</p>																														
<p>問7-(3) あなたの現在(住まい)の地図の郵便番号をご記入ください。(数字を記入) N=3,575</p> <table border="1"> <tr> <td>省略</td> <td>-</td> <td>省略</td> </tr> </table>										省略	-	省略																		
省略	-	省略																												

問7-(4) あなたの職業をお答えください。(○は1つ)	N=3,575
9.5% 自営業、またはその手伝い、 2.4% 民間企業・団体の経営者、役員 22.9% 民間企業・団体の勤め人(正規社員) 5.5% 民間企業・団体の勤め人(契約社員) 4.7% 公務員・教員	15.0% 異時・パート勤務の人 1.7% 学生 16.4% 無職 16.6% 専業主婦・主夫 2.6% その他()
	無回答-2.5%
問7-(5) 居住形態をお答えください。(○は1つ)	N=3,575
63.7% 特自家(一戸建て) 13.1% 特自家(集合住宅) 12.3% 民間の借家(一戸建て、集合住宅) 1.6% 給与住宅(住宅、公務員住宅)	5.1% 公営の借家(公営賃貸住宅) 1.7% 住宅供給公社、県営・市営住宅など 0.9% 借間、下宿 0.3% 住み込み、寄宿舎、独身寮など 0.8% その他()
	無回答-2.2%
問7-(6) 現在の地域(市区町村)での居住年数をご記入ください。(数字を記入)	N=3,575
平均 25.4 年	1年未満 2.3% 1~4年 10.9% 5~9年 10.2% 10~19年 18.5% 20~29年 16.8% 30~39年 16.1% 40~49年 10.9% 50年以上 11.7%
	無回答-2.6%
問7-(7) 今後も現在お住まいの地域(市区町村)に住み続けたいですか。(○は1つ)	N=3,575
63.1% 住み続けたい 27.0% どちらでもいい 6.9% 地域外に引っ越したい	27.0% どちらでもいい 6.9% 地域外に引っ越したい 無回答-3.0%
問7-(8) 同居している人がいますか。①から④についてもお答えください。	N=3,575
9.7% 1人暮らし → 下の②もお答えください。88.3% 同居人がいる	無回答-2.1%

全員の方へ	N=3,575
問7-(9) 最終学歴をお答えください。(○は1つ)	N=3,575
10.5% 小・中学校 40.2% 高等学校 11.4% 専修学校・各種学校 10.7% 高専・短期大学 23.6% 大学 2.3% 大学院	0.7% その他 無回答-0.6%
問7-(10) 主として、あなたの世帯を經濟的に支えている方はどなたですか。(○は1つ)	N=3,575
47.6% あなたご自身 46.8% あなたの以外のご家族の方 3.9% その他	無回答-1.3%
問7-(11) 世帯全体の、去年1年間の合計収入(ボーナス・年金・生活保護を含む)をお答えください。(○は1つ)	N=3,575
9.9% 200万円未満 29.4% 200万円~400万円未満 22.8% 400万円~600万円未満 13.9% 600万円~800万円未満	9.2% 800万円~1,000万円未満 4.1% 1,000万円~1,200万円未満 4.1% 1,200万円以上 5.3% わからない 無回答-1.3%

本調査や調査票等に関するご意見・ご感想などがございましたら、ご自由にご記入ください。

記入率
13.1%

ご協力ありがとうございました。

①同居の親(配偶者の親も含む) N=3,575	29.8% いる 56.6% いない 無回答=13.3%	平均 1.48 N=1,065 無回答=1.9%
②配偶者	69.8% 同居の配偶者あり 2.0% 弁居の配偶者あり 22.7% 配偶者はいない	無回答-5.5%
③その他の同居人 (祖父母、兄弟、子どもなど) N=3,575	55.1% いる 31.7% いない 無回答=13.1%	平均 1.81 N=1,970 無回答-1.1%
④同居している合計人数(自分を含めないでお答えください) N=3,575	0人 9.7% 1人 24.6% 2人 26.7% 3人 20.3% 4人 9.2% 5人以上 6.7% 無回答-3.3%	平均 2.20 N=3,575 自分を含めないで 無回答-3.3%